

熱海の水道

—令和6年度版—



初島海底送配水管布設替工事（海底送配水管 WNG $\phi 150$ L=6,786.8m）
令和6年度完成

熱海市 公営企業部 水道温泉課

目 次

第1章	水道の沿革	
	1. 事業認可等	1
	2. 水道の変遷	2
	3. 初島の概要	21
	4. 旧初島簡水の沿革	21
	5. 水道事業の現状と課題	26
第2章	水道施設の概要	
	1. 水源一覧	27
	図表 熱海市水道水系図(現状)	28
	図表 熱海市水系経路全図	29
	2. 浄水場一覧	30
	3. 配水池一覧	31
	4-1. 緊急遮断装置設置一覧	37
	4-2. 非常用発電機設置一覧	39
	5. ポンプ施設一覧	40
	6. 減圧弁一覧	45
	7-1. 滅菌装置一覧	48
	7-2. PAC装置一覧	49
第3章	水質検査	
	1. 水質検査成績表	50
	図表 配水系統と検査地点	53
第4章	水道料金	
	1. 熱海市の水道料金	55
第5章	水道事業統計	
	1. 事業の推移状況	59
	2. 料金の納付状況	61
	3. 月別使用量	62
	4. 種別、件数、有収水量、料金(税抜)	63
第6章	財務状況	
	1. 比較損益計算書(税抜)	65
	2. 性質別費用構成表(税抜)	65
	3. 資本的収支計算表(税抜)	67
	4. 比較貸借対照表	69
	5. 業務分析	71
	6. 財務分析	71
	職員機構図(令和7年4月1日現在)	73

第1章 水道の沿革

1. 事業認可等

事業名	許可 年月日	起工 年月	竣工 年月	計画給水 人口 (人)	1人1日 給水量 (ℓ)	1日最大 給水量 (m³)	事業費 (千円)	起債額 (千円)
創 設	明治 40.3.5	明治40. 4	明治42.11	8,000	-	-	75	100
第 1 期 拡 張	昭和 24.2.14	昭和24.11	昭和24.11	25,000	650	16,300	2,226	2,000
第 2 期 拡 張	-	昭和26. 2	昭和26. 3	28,000	650	18,200	4,846	12,000
第 3 期 拡 張	-	昭和26. 8	昭和26.12	35,000	650	22,700	8,514	7,000
第 4 期 拡 張	-	昭和27. 9	昭和27.11	40,000	650	26,000	4,500	5,000
第 5 期 拡 張	昭和 30.12.3	昭和30. 2	昭和33. 7	44,000	650	27,280	30,623	28,000
地 方 公 営 企 業 法 適 用 (昭 和 32 年 4 月 1 日)								
第6期拡張①	昭和 34.12.28	昭和35. 4	昭和40. 3	47,500	1,215	57,700	289,345	382,000
第6期拡張②	昭和 38.12.28	昭和39. 4	昭和42. 3	50,800	1,215	61,700	160,000	-
第 7 期 拡 張	昭和 39.12.21	昭和40. 4	昭和47. 3	72,000	1,569	113,000	1,920,000	1,813,000
第8期拡張①	昭和 47.1.10	昭和47. 4	昭和52. 3	80,000	1,650	132,000	1,981,197	1,885,000
第8期拡張②	平成 5.3.30	平成 5. 6	平成10. 3	61,000	1,967	120,000	2,000,000	-
届 出	平成 17.11.4	-	-	50,500	1,782	90,000	1,480,000	-
届 出	平成 20.8.29	-	-	40,400	1,586	64,000	5,995,575	-
認 可 変 更	平成 21.9.30	平成21.10	平成22. 3	41,000	1,529	62,000	5,841,975	-
届 出	平成 25.4.16	平成26.7	平成28.3	39,300	1,359	53,400	3,824,835	-
認 可 変 更	平成 28.12.28	平成30.6	令和4.3	37,200	1,273	47,400	1,050,280	-
認 可 変 更	令和 2.3.26	令和2.6	令和8.3	35,600	1,227	43,700	4,719,130	-
認 可 変 更	令和 4.1.25	令和4.2	令和13.3	35,600	1,238	43,700	11,713,000	-

2. 水道の変遷

〔1〕水道開設以前の状況

水道開設以前は、糸川・初川・和田川等の上流で川を堰き止め、竹樋をもって各戸へ水を引いていた。水口方面から出る山水は比較的良質であったため、町の中心部まで引水され利用されていたが、主に川水を使用していたため悪疫が絶えなかった。

特に糸川下流あたりではその被害も甚だしく、また当時は消火施設の整備も不十分であったため、災禍と相俟って壊滅的な打撃を受けることが再三あった。しかし、水道開設後は、災禍は収まっていった。

〔2〕簡易水道の布設

熱海は古来より温泉は豊富であったが、清水は乏しいという悩みがあった。

熱海に湯治中の貿易商、田中平八氏はこの状態を鑑みて水道布設の必要を感じ、金3千円の私費を投じ簡易水道を計画する。そして明治16年（1883年）、その地の人々の協力もあり簡易水道を完成させた。

その施設の大要は日金山麓の湧水を来宮神社社務所の横に設けた貯水池に引水し、竈をもって町中に引いて町内6ヶ所に設けた貯水タンクに入れ、これを各戸に引水するものであった。これが熱海における水道の始まりである。

〔3〕上水道の計画

時が経つにつれ人口が増加し、また都会からの湯治客や、別荘を構える人がますます多くなっていった。このため従来の飲料水では不足を感じるだけでなく、保養地として衛生上の設備が十分でないことを憂い、町有志者は簡易水道の改良工事を行うため再三の協議を重ねた。

その結果、明治33年（1900年）、町議会の決議をもって水道工事委員を選出し、本格的な調査研究が進められることになった。その任にあったのは町長の前田勝次、委員の内田市郎左衛門、保田久道、二見平右衛門、石渡喜一、山田賢三、石渡要吾、石渡均之助などの諸氏であった。

将来のためにと、当事者は水道の布設が急務であることを世論に訴えたのだが、当時の貧弱な町財政では時期尚早を唱える者が多く、工費10万円を要すると聞いて「水にそんな大金を出すなんて愚かな事はない！」と根本的に反対する者もあり、その金額に腰を抜かす者もありで、町民の8割方が反対に傾いた。誓欣院で町民大会を開いて当局に反対決議文を突き付けるなど、ただならぬ雲行きとなっていたが、当時10万円という工費は大金に相当したので、

町民から反対意見が出たのも当然のことであった。

そこで理事者は苦心の末、反対論者を歴訪して了解を求めると同時に、反対を静めるために半額の工費 5 万円で出来ないものかと考えることになる。しかし、設計上どうしても 10 万円は必要であり、折り合って 7 万 5 千円で着工することになった。

〔４〕上水道の設計

設計については日本水道界の先覚者であり、工学博士でもある中島鋭治氏の直接指導監督の下行われた。中島氏が作成した熱海上水道設計書の大要は下記のとおりである。

①給 水 区 域	来宮、宮西、仲田、野中、本町、浜町、躍場、清水田、 紀ノ本、鶴田、小麦田、入河原、染殿、都松、戸倉
②給水予定人口	8, 0 0 0 人
③給 水 量	一人一日平均三立方尺（8 3 0）
④水 源	熱海町伊豆山字土沢、姫の沢湧水

〔５〕認可申請と資金調達

準備完了後の明治 39 年（1906 年）7 月 12 日に布設認可申請を行い、同年、静岡県知事 李家隆介の斡旋により、熱海町水道公債は全額、日本興業銀行で引き受けてくれることになった。

翌明治 40 年（1907 年）3 月 5 日、時の内務大臣 原敬の名によって認可を受けた。

しかし、7 万 5 千円の起債を仰いで工事に着手したものの 7 割方出来上がった頃には予定工事費を使い果たしてしまい、続行することが不可能になってしまった。当局者は設計者の岡田技師を呼び事情を調査したところ、実は当初から 9 万 3 千円かかる設計になっていたことが判明する。そこで理事者は再度、知事へ設計書を持参し、事情を述べて 2 万 5 千円の追加起債を陳情した。この起債も知事の計らいにより農工銀行で引き受けてくれることになったが、利息も高かったため償還の苦労は相当なものであった。

市であれば補助の対象となった工事も、当時の熱海はまだ町であったため補助金の交付が一切なく、石渡要吾町長時代になると、安田銀行より 10 万円を 6 分 8 厘で借り換えることに成功したが、起債の償還には多大な負担を強いられることになった。この当時、市町村水道があったのは横浜市、函館市、長崎市等 16 ヶ所だけで、熱海は 17 番目に古い創設となった。

〔６〕西山浄水場の起工

明治41年（1908年）4月5日、熱海町熱海字立石の地に起工を開始し、同42年（1909年）11月21日竣工、12月21日に給水を開始した。事業にかかった工事費は総額97,708円で、財源はすべて公債をもって支弁することになった。

関係技術者には、設計顧問であり工学博士の中島鋭治氏、工事主任技師の岡田卯之助氏、同じく技師の奈良茂樹氏がいた。また、中島氏を紹介したのは当時、樋口旅館に滞在中の伊藤博文公であった。

〔７〕震災復旧と第1期～第5期拡張工事

関東大震災からの復興を経て、その後、橋戸水源（姫の沢公園入口下－1, 031 m³/日）、小石ヶ沢水源（姫の沢公園付近－840 m³/日）の拡張工事も行われたが、この西山浄水場は昭和29年（1954年）に廃止されるまで、極めて大きな役割を果たしていた。



昭和12年（1937年）頃の熱海西山浄水場

終戦後、経済のめざましい発展に伴い、使用する水量も急激に増加していった。すると、一日約10,000 m³の給水能力では需要を賄いきれなくなり、高台地区ではしばしば断水するような事態が生じた。

そこで、新しい水源として考えられたのが、丹那トンネルの水抜き抗から初川に放流されている湧水であり、うち12,000 m³を取水する計画が立てられた。幸い水質も良好であったため、

昭和22年（1947年）に着工し6ヶ月を要して全長1,190 mの配水管が完成した。

この結果、熱海の中心市街地は全域でその恩恵を受けることとなり、渇水期の断水が解消したばかりでなく、水を豊富に使用できるようになった。このように多量でしかも全く新しい形で水源が確保されたことは、熱海の水道史上、画期的なことであった。

明治時代から熱海の上水道を支えてきた西山浄水場は、昭和29年（1954年）に廃止され第一小学校の敷地となり、代わって竹の沢（西山バス停下）に配水池が作られ、高台地区に一日6,000 m³の給水を開始した。しかし、これだけでは発展する高台地区の需要を賄いきれないため、来宮駅下にもポンプ室を新設し、丹那湧水をポンプアップして、野中、咲見町、田原方面への送水を開始した。それまで年間200万 m³台であった水道使用量は、昭和28年（1953年）には300万 m³を超え、それ以降は年々増加の一途を辿っていくことになる。

〔8〕第6期拡張工事

昭和37年（1962年）3月には、来宮口の丹那湧水全部を取水することになり、取水口をコンクリート築造にすると同時に、来宮ポンプ場に浄水場と4,000m³の配水池（昭和38年〈1963年〉7月完成）を、林ガ久保に3,000m³の配水池（同年4月完成）を、それぞれ新設した。これまで夜間初川に放流されていた水は備蓄用とされ、昼間の需要に備えた。

昭和37年（1962年）の新丹那トンネルの掘削工事中は、やや水不足が生じていたが、東海道新幹線が開通すると新トンネルからの湧水も合わせて一日37,500m³の水が確保され、水不足は一応解消された。

上記以外にも、昭和36年（1961年）11月には土沢浄水場（処理能力2,000m³）、昭和39年（1964年）6月には宮川浄水場（処理能力7,500m³）、昭和40年（1965年）3月には初川浄水場（処理能力4,000m³）などが新設されている。

認 可	昭和34年（1959年）12月28日 厚生省静衛第1884号
区 域	桃山台町、桃山町、水口町、梅園町
給 水 量	一日 61,700m ³
給水人口	50,800人（一人一日1,215ℓ）
総事業費	4億4千9百万円
工 期	昭和35年（1960年）4月 ～ 昭和42年（1967年）3月

〔 9 〕 第 7 期 拡 張 工 事

これまでの事業は主に各地区の拡張事業であったが、第 7 期拡張では多賀、伊豆山、泉地区に重点をおき、各地区をつないで熱海市全域を給水の対象とした。

【 主 な 事 業 概 要 】

- (1) 多賀～熱海間の送水管布設（ $\phi 400\text{mm}$ $L=6,000\text{m}$ ）
- (2) 曾我山トンネル配水池（2,600 m^3 ）
- (3) 上多賀管路トンネル（ $L=311\text{m}$ ）
- (4) 伊豆山浄水場（3,000 m^3 ）
- (5) 泉浄水場（5,000 m^3 ）
- (6) 泉～伊豆山間の送水管布設（ $\phi 200\text{mm}$ $L=7,000\text{m}$ ）
- (7) 網代山送水管布設
- (8) 泉地区、伊豆山地区の簡易水道統合

こうして全市配水管網が完備し、水の最需要期には、多賀の水を熱海へ、泉の水を伊豆山七尾、大名ガ丘地区へ送水できるようになり安定給水が図られることになる。

認 可	昭和 39 年（1964 年）12 月 21 日 厚生省収環第 508 号
区 域	伊豆山浜、仲道、岸谷、稲村、大黒崎、泉本区、泉、南湯河原、 竹の沢、和田山、小嵐、錦ガ浦、上多賀、下多賀、和田木、網代
給 水 量	一日 113,000 m^3
給水人口	72,000 人（一人一日 1,569 ℓ ）
総事業費	19 億 2 千万円
工 期	昭和 40 年（1965 年）4 月 ～ 昭和 47 年（1972 年）3 月

しかし、東名高速道路や新幹線の開通、東京オリンピックの開催などから観光客が増加し、それに伴う観光施設のマンモス化は必然的に水の需要を増大させ、水不足が生じる傾向にあった。昭和 41 年（1966 年）当時、市内には 30 箇所の水源があったが、丹那水源以外はいずれも小規模で分散していたため、水不足は度々問題となる。

実際に昭和 39 年（1964 年）の夏、渇水により市内各所で断水が生じている。このときは函南町の好意により昭和 39 年から昭和 44 年まで丹那トンネル内の分水嶺を変更し急場をしのいだ。翌 40 年（1965 年）と 41 年（1966 年）にも同様な事態が生じてしまう。こうなると、いつまでも函南町の好意に頼るわけにもいかず、水源確保が急務となった。

そこで出された提案は 2 つあり、第 1 案は丹那トンネルの湧水全量（10 万 m^3 ／日）を熱海市へ引こうとするもの。第 2 案は柿田川の湧水を三島市、函南町、熱海市で利用できるよう県に広域水道の建設をお願いするものであった。

しかし、丹那トンネル内の水を全部片方へ流すことはトンネルの構造上難しく、また函南町でもこの水は農業用水や養魚場などで利用されていたため、検討の結果、第2案の柿田川湧水を利用することになった。

〔10〕第8期拡張工事

三島市、函南町、熱海市の再三の陳情の結果、県企業局も理解を示し、駿豆水道用水供給事業が昭和45年度（1970年度）より5ヵ年計画で着手される運びとなった。

昭和50年（1975年）3月より日量45,000 m^3 の供給を開始し、翌年度には日量100,000 m^3 の能力をもって供給されることになる。（総事業費83億円）

なお、第8期拡張工事は、この駿豆水道からの受水に関連した事業が行われている。

【主な事業概要】

- (1) 相の原受水槽（1,000 m^3 ）、一里茶屋受水槽（1,000 m^3 ）
- (2) 姫の沢管路トンネル（ $L=615\text{m}$ ）
- (3) 姫の沢トンネル配水池（3,400 m^3 ）
- (4) 吾妻管路トンネル（243 m ）、
伊豆山～七尾間の送水管布設（ $L\approx 4,300\text{m}$ ）
- (5) 初川PC配水池（2,000 m^3 ）、初川監視装置設置
- (6) 伊豆山PC配水池（1,000 m^3 ）、上多賀PC配水池（1,000 m^3 ）

認 可	昭和47年（1972年）1月10日	厚生省収環第10号
給 水 量	一日	132,000 m^3
給水人口	80,000人	（一人一日1,650 ℓ ）
総事業費	19億8千万円	
工 期	昭和47年（1972年）4月	～ 昭和52年（1977年）3月



柿 田 川 湧 水



水中より湧き出ている様子

当初計画における駿豆水道の受水単価は、三島市が13円60銭、函南町26円、熱海市が31円、平均25円78銭であった。昭和42年（1967年）当時の給水原価は10円59銭だったので、約3倍の水を買うことになるのだが、水なくしては熱海の発展はあり得ないということで具体化した。

しかし、その後に起きたオイルショック等で今までの物価は一変し、完成時の昭和50年度（1975年）には1m³当り45円、昭和52年度（1977年度）からは62円に値上がってしまう。

平成14年度（2002年度）には、料金体系が下記のとおり二部料金制に変更された。

【送水概要】 送水管φ900mm～φ700mm、延長約21km、高低差420m
3箇所の中継ポンプ場と減圧槽を経由し、2,500m³/時を熱海市へ送水

【受水概要】 平成14年度（2002年度）より二部料金制

内 訳	熱 海 市	函 南 町	三 島 市	合 計
受 水 契 約 量	60,000 m ³	10,000 m ³	30,000 m ³	100,000 m ³
基本料金単価	30 円	30 円	30 円	****
使用水量単価	28 円	17 円	6 円	****

〔 1 1 〕 事業経営の変更

熱海市ではまちづくりの基本理念を示す計画として、昭和54年（1979年）3月に『熱海市総合計画』を策定した。平成元年（1989年）には、まちづくりの目標を“ふれあいのまち リゾート熱海”と定めた『新熱海市総合計画』が策定されている。これにより水道事業としても、計画に則した施策の検討を行うことになった。

主な検討内容は、

- ① 給水区域の見直し及び簡易水道の一部統合
- ② 近年急増していた給水区域外のリゾートマンション計画への供給対応策 など

また、第8期拡張事業で設定していた目標年次を越えていたこともあり、改めて事業内容の再検討を行う必要があった。以上を踏まえ、全般的な施策整備と運営改善を行った。

【変更申請の事業内容】

- (1) 給水区域の拡張
- (2) 配水施設の新設・改良
- (3) 送水量調整施設の整備
- (4) 在来の水源・浄水場の整備
- (5) 簡易水道の一部統合
- (6) 行政区域外への一部供給

認 可	平成5年（1993年）3月30日 厚生省生衛第364号
給 水 量	一日 120,000 m ³
給水人口	61,000人（一人一日 1,967ℓ）
総事業費	20億円
工 期	平成5年（1993年）6月～平成10年（1998年）3月



静岡県駿豆水道熱海調整池

〔１２〕県営駿豆水道「熱海調整池」の完成

地震災害時等における駿豆水道の安定供給を図るため、以前より静岡県に要望してきた「熱海調整池」が、県企業局によって平成８年（１９９６年）９月に完成した。

- ◆ 設置場所 熱海市熱海字笹尻 １８０４－５（２，２６７㎡） 笹尻交差点付近
- ◆ 建設年度 平成６年度（１９９４年度） ～ 平成８年度（１９９６年度）
（３ヵ年継続事業）
- ◆ 事業費 １２億９千６百万円
- ◆ 容 量 ＲＣ造 ９，０００㎡
- ◆ 附帯設備 計 器 室（ＲＣ造 １２８㎡）
緊急遮断弁 直流モーター駆動バタフライ弁…４基
地 震 計 水平震度２００ガル以上で作動…２台
テレメータ 親機（中島浄水場）／子機（熱海調整池）…１式
水 位 計 投込式…１台、電波式…１台、電極式…２台
流 量 計 φ７００超音波流量計…２台
残留塩素計 自動計測機…１式
無停電電源装置 ３ＫＶＡ（６０Ａ）…１式

以上の施設が完成したことにより、

- ① 県施設のポンプ等が故障、停電等で停止しても４～６時間の水道水が確保可能
- ② 地震災害時、緊急遮断弁により確保された水道水が応急給水の水源となるなど、一層の安定供給が図られるようになった。

〔１３〕「熱海自然郷別荘地簡易水道事業」の統合

平成１６年（２００４年）１１月、コマツゼネラルサービス㈱より熱海市上多賀地内にある熱海自然郷別荘地簡易水道事業移管の「要望書」が提出され、平成１７年（２００５年）３月に「覚書」、同年７月に「協定書」を締結した。同年９月にはコマツゼネラルサービス㈱による水道施設の更新工事が着手され、約３ヵ年の工事期間を経て、平成２０年（２００８年）８月に施設が移管され、同年９月に熱海市上水道事業に統合された。

総事業費 ２３億４千万円
面 積 １７０ha
加入件数 １，００８件

- ◆ 配水設備 送水管延長 $L=11,381\text{m}$ （φ７５，φ１５０）
配水管延長 $L=33,989\text{m}$ （φ２５～φ１５０）
配水池数 ６池（容量合計 １，０９５㎡）

- ◆ 電気ポンプ設備 非常用発電機…4台
送水ポンプ…8台
加圧ポンプ…2台

- ◆ 土地施設用地 1,017㎡

認可 平成21年(2009年)9月30日 静岡県環水第186号
日最大給水量 62,000㎥/日
計画給水人口 41,000人(一人一日1,512ℓ)
(※計画給水人口が50,000人以下なので県の認可となる)

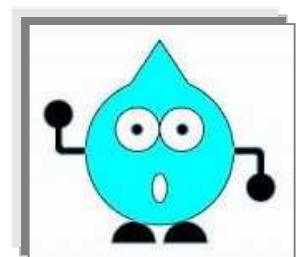
〔14〕通水開始から100周年を迎えて

平成21年(2009年)12月には、明治42年(1909年)12月の給水開始から数えて100周年を迎えた。

これを記念して、平成21年(2009年)11月12日から15日までの4日間に渡り、「熱海の水道100年」記念イベントが開催された。市町村水道としては全国で17番目に古いとされる熱海市の水道であるが、その長い歴史の中で、実際に使用されていた水道管や道具等の展示や、市内の小中学生から「歴史ある熱海の水」というテーマで募集したポスターや標語の展示を中心に、「漏水探知機体験コーナー」を始めとした体験コーナーや、熱海管工事工業協同組合による「水道なんでも相談」ブース等が設けられた。



熱海の水道100年記念イベント
キャラクター:「ちゃっぷん」



〔 1 5 〕「泉浄水場膜ろ過施設整備事業」の完成

泉川表流水を導水している昭和 41 年竣工の泉浄水場において、老朽化した急速ろ過施設（計画給水量 5,000 m³/日）の更新及び、多様化する水質基準への対応を行うための全面的な浄水場再整備が平成 28 年度末に完了した。

- ◆ 位 置 熱海市泉元宮上分字奥西山 415
- ◆ 事業年度 平成 26 年 8 月～平成 29 年 3 月
- ◆ 事業費 466,864,560 円（税込工事費）
 - 〔 内 訳 〕 H26 泉浄水場整備工事 84,620,000 円【債務負担】
 - 泉浄水場膜ろ過管理棟築造工事 66,832,560 円
 - 泉浄水場膜ろ過管理棟
築造工事に伴う付帯工事 1,857,600 円
 - H27 泉浄水場整備工事 51,880,000 円【債務負担】
 - 泉浄水場膜ろ過施設整備工事 184,133,520 円
 - H28 泉浄水場整備工事 77,540,880 円【債務負担】
- ◆ 計画給水量 3,000 m³/日
- ◆ 主な施設
 - 管 理 棟 RC 造地上 2 階 延べ面積 A=262.54 m²
 膜ろ過装置 PVDF 製 UF 膜ろ過ユニット 2 系統
 （1 系統膜モジュール 11 本×2）
 制御盤 1 基、逆洗水槽 1 基、ストレーナ 2 基
 ポンプ類 1 式、次亜注入設備 1 式
 - 沈 砂 池 RC 造 V=74 m³
 - 原 水 槽 RC 造 V=21 m³
 - 浄 水 池 RC 造 V=130 m³
 - 水質監視計器 原水濁度計 1 基、浄水濁度計 1 基、色度計 1 基
 残留塩素計 1 基、生物センサー 1 基
 - 計 装 盤 泉系配水池監視盤 1 基
 - 発 電 設 備 非常用発電機 75kVA 1 基、その他場内整備 1 式

以上の施設が完成したことにより

- ① 耐震性の向上
- ② 無人化によるコスト削減
- ③ クリプトスポリジウム等、多様化する水質基準への対応などが改善され、一層の安定供給が図られるようになった。

〔 1 6 〕 自己水源を有効に活用するための事業変更認可

駿豆水道からの受水が開始されて以降、伊豆山水源・橋戸水源・小石ヶ沢水源・相の原水源・堰下水源の配水区域を駿豆水道で賄うことが可能となったため、この5水源を休止した。これにより平成20年度における熱海市内の駿豆水道と自己水源との配水量の割合は6：4であり、駿豆水道の依存度が高い状況となった。

平成20年4月28日夕方、静岡県企業局中島浄水場で漏水事故が発生し、駿豆水道配水エリアにおいて3日間の断水を余儀なくされた。ゴールデンウィーク初日からの事故であり市民生活のほか、ホテル・旅館の営業に大打撃を与えた。この事故により自己水源の復活を求める声が強まり始めた。

昭和50年に熱海市契約受水量60,000m³/日で給水が始まった駿豆水道であったが、節水志向や節水器具の普及、人口減少の影響より平成27年度中の1日最大配水量であっても14,500m³/日まで駿豆水道の使用量が落ち込んでいった。

このようなことを踏まえ、平成28年度に自己水源を有効に活用するための事業認可変更を申請し、今後、駿豆水道受水以前の水源の再整備を行い、駿豆水道の必要水量の見直しを図ることとした。

認 可 平成28年（2016年）12月28日 静岡県環水第204号

日最大給水量 47,400m³/日

計画給水人口 37,200人（一人一日1,274ℓ）

（※計画給水人口が50,000人以下なので県の認可となる）

〔 1 7 〕 来宮配水池の更新

丹那水源を貯水して市街地に配水している来宮配水池（4,000 m³）は、昭和 3 7 年度に築造され、R C 製配水池の前面に石積みを施した景観上美しい配水池として完成した。昭和 4 9 年、来宮配水池の上部に盛土し道路を建設することになり、盛土や車両などからの荷重に対して配水池を補強するため、配水池内に幾つもの R C 製の柱を建設した。

この道路は主要地方道熱海函南線となり、市街地から梅園、相の原・函南町方面への交通の主要道として利用されている一方、配水池は建設から約 5 5 年経過し、老朽化が進んできた。このため、配水池の更新を検討していたが、配水池は道路の下となってしまうため、同じ場所へ新たに築造することが不可能であった。また、丹那水源の水は丹那トンネルから流れてくるため、配水池建設用地の標高を丹那トンネルより低くする必要があった。ところが丹那トンネルより標高の低い地域は、市街地となってしまうため配水池を建設できる用地が確保できずにいた。こうした現状の中で唯一、建設が可能である用地は、J R 来宮駅の前にある市営来宮駐車場であった。この市営来宮駐車場は今後様々な利活用が検討されている用地であったが、水道の重要性を理解していただき配水池建設用地として市営来宮駐車場の一部を利用することになった。

こうして配水池築造工事が平成 2 8 年度から 2 9 年度にかけて行われた。市営来宮駐車場は丹那トンネル隧道工事の掘削土（ズリ）で盛土された土地であったため、地盤支持力が無く、直径 1,500 mm のコンクリート製の杭を 4 4 本造り、その上部にステンレス製配水池（3,200 m³）を新たに築造し平成 3 0 年 3 月に使用開始された。



〔１８〕離島初島簡易水道事業の廃止及び初島地区の水道事業への統合（事業変更認可）

県内唯一の有人離島である初島地区にかかる給水については、昭和５４年度に熱海市水道事業会計（以下、「水道事業会計」）から熱海市離島初島簡易水道事業特別会計（以下、「初島簡水特別会計」）へ移行され地方公営企業法非適用会計（官公庁方式会計）として事業運営されてきた。この会計手法は、給水人口が少ない簡易水道事業において多く取られてきた会計方法であり、平成２５年度決算時点で、官公庁方式会計ではない地方公営企業法適用会計（企業会計）を選択している簡易水道事業は、全国の１９．７％の事業体にとどまっていた。官公庁方式会計の場合、単年度の現金の動き（現金主義）による会計であるため、企業会計に比べ分かりやすく、地方自治法に基づき、歳入歳出の不足分については予算の範囲であれば一般会計からの繰入（公費負担）が行われることがある。また固定資産については、減価償却費の予算措置はなく、将来の更新費用の算出について難しい特色を有している。これに対し、企業会計は、地方公営企業法の適用を受けていることから独立採算制（公費負担に頼らないもの）を原則としている。そして、固定資産の取得時から次の更新までにどれだけの資金を確保すべきかという期間計算を行い、そこで見積もられた金額を適切に決算へ反映していく特色を有している。したがって、企業会計（発生主義）は官公庁方式会計に比べて、事業を継続していく際に不可欠な更新費用についてより厳格な基準をもって運営していると言える。いずれにせよ、水道事業とは異なり、簡易水道事業は、地方公営企業法を適用する可否かは各自治体に任せられてきた（任意適用）。

こうした中、平成２７年１月２７日付総務大臣通知にて「公営企業会計の適用の推進について」が発出され、都道府県及び人口３万人以上の市区町村等については公共下水道、流域下水道、簡易水道事業の各事業会計において地方公営企業法を適用するよう要請を受けることとなった。会計方式変更の背景としては、全国的な人口減少に伴い有収水量の増加が見込むことができない中、一方で管路の老朽化による更新需要が高まっているという厳しい経営環境が影響している。持続的な経営を考えた場合、「公共的必要余剰」（純利益）を確保しなければ将来の固定資産の更新需要を満たせず、「安全な給水」という事業本来の目的が達成できなくなる恐れがある。この純利益をどのように確保するかという点では、歳入から歳出を差し引く官公庁方式会計ではなく、発生主義に基づく企業会計を採用する方が、将来に向けて内部留保を積み上げていくという機能が働くため、企業会計が任意適用であった簡易水道事業にも当然適用の水道事業と同様、地方公営企業法の適用が求められたものである。なお、平成２８年度から平成３１（令和元）年度までを「公営企業会計適用の『集中取組期間』」とし、特に下水道事業及び簡易水道事業は、「重点事業」と位置付けられた。

このため、本市としても初島簡水特別会計を令和元年度までに官公庁方式会計から企業会計へ改めるための検討を行うこととなった。

まず、取り組んだのは、初島地区への浄水方法（海底送水管の維持又は海水淡水化施設の新設）検討である。これは、昭和55年7月供用開始の海底送水管について、布設から30年以上経過しており、老朽化への懸念が顕在化したことを契機としている。今後も、海底送水管による給水を継続するならば、初島地区の水源が水道事業会計所管の宮川浄水場であるため、初島簡水特別会計を水道事業会計へ統合することができるが、海水淡水化施設で浄水をし給水する場合、水源が水道事業会計とは異なるため、水道事業会計への統合は選択肢から外れることとなる。したがって、浄水方法の検討は、初島簡水特別会計の方向を決める上で、判断材料の1つとなった。

この検討は、平成28年度に「初島浄水調達方法検討業務委託」を締結した上で行われ、委託成果品によると、自然流下による海底送水管単独型が最もトータルコストとして安価であり、最適であると分析された。

また、その検討と平行して平成28年度から平成31（令和元）年度にかけて、「熱海市離島初島簡易水道事業特別会計地方公営企業法適用化移行業務委託」を締結し、固定資産調査や会計システム構築等、所要の準備を行った。

このように、移行時には、経常経費以外の費用を要したが、集中取組期間において企業会計への移行に要した経費については、地方債の発行が可能となり（資金区分は、銀行等引受債であり、10年以内に償還することが条件）、その元利償還については、地方公営企業への繰出基準通知に基づく「基準内繰出」となったため一般会計からの繰入が行われた。また、発行した地方債に対する元利償還の2分の1について普通交付税措置が講じられたことにより、平成21年度から普通交付税の交付団体となった熱海市にとっても、一般会計の負担が軽減されたことになる。

以上の取組みを経て、平成27年1月の総務大臣要請から行ってきた準備により、令和元年11月定例会にて初島簡水特別会計条例（昭和54年熱海市条例第19号。以下「特別会計条例」）の廃止と水道事業会計への統合を議案提出し可決されたものである。

また、時期を同じくして認可変更の取組みの中で、初島簡水特別会計を水道事業会計へ統合するために、静岡県と認可変更の協議を令和元年度に行った。変更する主な理由は、統合に加えて、平成28年度に取得した認可にて新たに設置した水源（小石ヶ沢、橋戸、堰下）の浄水方法について、浄水方法（紫外線処理）を急速ろ過へ変更するとともに、来宮浄水場（丹那隧道水源）についても、クリプトスポリジウム対策として浄水方法（マイクロストレーナ）を膜ろ過へ変更することが盛り込まれており、令和2年3月26日には事業変更について認可された。

こうして、令和2年3月31日に、特別会計条例の廃止に伴い初島簡水特別会計は閉鎖され、4月1日から水道事業会計へ統合されることとなった。

認可 令和2年（2020年）3月26日 静岡県環水第316号

日最大給水量 43,700 m³/日

計画給水人口 35,600人（一人一日1,227ℓ）

（※計画給水人口が50,000人以下なので県の認可となる）

統合に要した事業費（公債費除く）

（単位：円）

歳入		歳出	
市債	40,500,000	委託料	31,592,600
平成28年度	(3,300,000)	平成28年度	(947,484)
平成29年度	(4,500,000)	平成29年度	(2,359,044)
平成30年度	(5,600,000)	平成30年度	(3,288,006)
令和元年度	(27,100,000)	令和元年度	(4,470,066)
		（特例的支出）※1	(20,528,000)
一般会計繰入金※2	341,400	臨時職員経費	9,172,480
平成28年度	(53,710)	平成28年度	(2,377,406)
平成29年度	(55,018)	平成29年度	(2,188,174)
平成30年度	(17,465)	平成30年度	(2,321,659)
令和元年度	(215,207)	令和元年度	(2,110,986)
		（特例的支出）	(174,255)
		旅費	76,320
		平成28年度	(28,820)
		平成29年度	(7,800)
		平成30年度	(7,800)
		令和元年度	(31,900)
歳入合計	40,841,400	歳出合計	40,841,400
平成28年度	(3,353,710)	平成28年度	(3,353,710)
平成29年度	(4,555,018)	平成29年度	(4,555,018)
平成30年度	(5,617,465)	平成30年度	(5,617,465)
令和元年度	(27,315,207)	令和元年度	(6,612,952)
		（特例的支出）	(20,702,255)

※1 水道事業会計へ引継がれた未払金を特例的支出として記載した。

令和2年3月31日をもって初島簡水特別会計は閉鎖されたため、同日付けですべての出納は打ち切られることとなった。このため、水道事業会計へ引継がれた債務にかかる未払金は、地方公営企業法施行令（昭和27年政令第403号）第4条第4項の規定により令和2

年水道事業会計における債務として整理された（内訳は以下のとおり）。

なお、この未払金は、令和２年９月定例会において令和２年度水道事業会計当初予算第４条の２「特例的収入及び支出」で定めた額を補正し改めた。

※２事業充当相当額である。一般会計繰入額の会計決算額は以下のとおりである。

（単位：円）

一般会計繰入金	計	26,958,000
平成２８年度		(8,251,000)
平成２９年度		(4,576,000)
平成３０年度		(6,524,000)
令和元年度		(7,607,000)

事業費（公債費）

公営企業会計の適用に要する経費の財源に充当するための公営企業債（公営企業会計適用債）にかかる元利償還金は以下のとおりである。

（単位：円）

借入年度	借入額	借入先	利率	科目	H29 年度	H30 年度	R 元年度	H29～R 元	未償還残高※3
H28	3, 300, 000	三島信用 金庫	0. 25 %	元金	0	0	412, 500	412, 500	2, 887, 500
				利子	8, 272	8, 249	8, 014	24, 535	
				計	8, 272	8, 249	420, 514	437, 035	
H29	4, 500, 000	三島信用 金庫	0. 59 %	元金	0	0	0	0	4, 500, 000
				利子	0	26, 621	26, 622	53, 243	
				計	0	26, 621	26, 622	53, 243	
H30	5, 600, 000	三島信用 金庫	0. 44 %	元金	0	0	0	0	5, 600, 000
				利子	0	0	24, 774	24, 774	
				計	0	0	24, 774	24, 774	
R 元	27, 100, 000	あいら 伊豆農協	0. 305 %	元金	0	0	0	0	27, 100, 000
				利子	0	0	0	0	
				計	0	0	0	0	
計	40, 500, 000	元 金			0	0	412, 500	412, 500	40, 087, 500
		利 子			8, 272	34, 870	59, 410	102, 552	
		計			8, 272	34, 870	471, 910	515, 052	

※３公営企業会計適用債残高 40,087,500 円に加え、財政融資資金 31,343,432 円及び地方公共団体金融機構 21,423,141 円の合計 92,854,073 円を水道事業会計へ引継いだ。

業務委託

(単位：円)

業務委託名	内容	金額
熱海市離島初島簡易水道事業特別会計地方公営企業法適用化移行業務委託	固定資産整理及び調査 公営企業会計システム環境の整備 打切り決算指導及び助言 消費税等の適切な納税体制に係る指導及び助言 ㈱フューチャーイン静岡支店 平成28年度から令和元年度まで【債務負担行為】	11,064,600
料金システム対応（データ変換及びマスタ設定）業務委託	料金システムデータ変換等 ㈱フューチャーイン静岡支店 令和元年度	231,000
料金システム対応（計算テスト作業）業務委託	料金システム計算テスト確認 ㈱フューチャーイン静岡支店 令和元年度	297,000
熱海市上水道事業届出設計業務委託	認可変更届出業務（初島分） ㈱大場上下水道設計沼津営業所 令和元年度	20,000,000
合計		31,592,600

特例的收入及び支出

令和2年度水道事業会計へ引継がれた未収金（特例的收入）及び未払金（特例的支出）

(単位：円)

未収金（特例的收入）科目	金額
初島簡易水道使用料	4,273,172

(単位：円)

未払金（特例的支出）科目			金額
初島簡易水道事業の管理運営経費			2,825,366
需用費	光熱水費		36,739
役務費	通信運搬費	電話料金	9,086
		初島簡易水道施設監視(ASP)システム	85,800
	手数料	口座振替手数料	2,662
		コンビニエンスストア収納業務代行手数料	369
委託料	水質検査業務委託		2,750

		水道料金徴収等業務委託	102,960
	工事請負費	初島受水槽施設修繕工事	2,585,000
	地方公営企業法適用化に要する経費		20,702,255
	共済費		21,655
	賃金		152,600
	委託料	料金システム対応（データ変換及びマスタ設定）業務委託	231,000
		料金システム対応（計算テスト作業）業務委託	297,000
		熱海市上水道事業届出設計業務委託	20,000,000
	合計		23,527,621

引継財産

特別会計条例廃止に伴う初島簡水特別会計閉鎖に伴い水道事業会計へ引継がれた財産は以下のとおり

（単位：円）

借方		貸方	
1 固定資産		3 固定負債	
（１）有形固定資産		（１）企業債	87,440,996
ア 建物	9,317,301	固定負債合計	87,440,996
イ 構築物	215,502,174	4 流動負債	
ウ 機械及び装置	19,561,692	（１）企業債	5,413,077
有形固定資産合計	244,381,167	（２）未払金	23,527,621
固定資産合計	244,381,167	流動負債合計	28,940,698
2 流動資産		5 繰延収益	145,069,554
（１）現金預金	19,309,712	（１）繰延収益合計	145,069,554
（２）未収金	4,273,172	負債合計	<u>261,451,248</u>
流動資産合計	<u>23,582,884</u>	6 資本金	6,512,803
		資本合計	<u>6,512,803</u>
資産合計	<u>267,964,051</u>	負債・資本合計	<u>267,964,051</u>

3. 初島の概要

熱海市の沖合約10kmの海上に浮かぶ初島は静岡県唯一の離島である。相模湾に臨む東京から最も近い南の島で、周囲4km（東西1.2km）、面積0.44km²、海拔50mの海食台地であり、熱海港から連絡船で約25分のところに位置している。



初島全景

松の緑豊かで気候温暖な“おたまじゃくし”型のこの島は、昭和36年（1961年）9月「外海近接型離島」の指定を受けている。またこの島の中央部には縄文式土器が出土した遺跡が確認されており、歴史的にも由緒ある島といえる。

4. 旧初島簡水の沿革

〔1〕水道布設以前の状況

初島も他の離島同様、^{かね}予てより水資源の限界から水の確保に大変な苦労を重ねてきた。

昭和38年（1963年）に初めて簡易水道が布設されたが、それまでは湧水をもとにした浅井戸や雨水を利用し、生活用水を確保していた。その方法は非常に原始的なものであった。

当時、女性達は島唯一の共同井戸まで朝晩天秤を担ぎ、水を汲むことを日課としていた。



井戸で洗濯する女性達

しかし、この井戸も生活文化の進展に伴い、次第に水量不足と水質の変化を来し、島民の生活を脅かすようになっていく。その当時のことを知る島の人々は「夜の明けるのを待ちかねて、少しでもよい水を確保していた。」と懐古している。特に真冬は水も冷たく、大変辛い作業であったという。

〔２〕簡易水道の布設

昭和３８年（１９６３年）２月、静岡県知事の認可を取り、島の２つの浅井戸を水源とした簡易水道事業を開始した。この事業は離島振興法の適用を受け、国庫及び県の補助金が充当された。

【計画の概要】

水 源	浅井戸２本		
計画給水人口	３００人		
最大給水量	４５ｍ ^３ /日		
総事業費	４，８６９千円	国庫補助金	１，６００ 千円
		県費補助金	８００ 千円
		自己財源	２，４６９ 千円

この事業によりひとまず水量を確保出来るようになったが、その反面、水使用量が増加したことで次第に原水の塩素イオン濃度が上昇し、昭和４６年（１９７１年）には水質基準（２００mg/ℓ）をはるかに上回る１，４００mg/ℓを記録するに至った。このため、島民の健康に悪影響を与える恐れが生じてきたことから、新たに脱塩浄水装置を設置し、原水の塩素イオン濃度を抑えるための計画が検討されることになった。

〔３〕脱塩浄水装置の導入

昭和４７年（１９７２年）に離島振興法の適用を受け、国及び県の補助により脱塩浄水装置が設置された。

【計画の概要】

水 源	浅井戸３本		
計画給水人口	３００人		
最大給水量	２００ｍ ^３ /日		
総事業費	５５，７０８千円	国庫補助金	９，７３８ 千円
		県費補助金	４，０５７ 千円
		地方債	３３，４００ 千円
		自己財源	８，５１３ 千円
工 期	昭和４７年（１９７２年）９月～４８年（１９７３年）３月		

この事業の実施によって、ようやく良好な水質の水が確保できるようになると思われたが、すぐにその限界が来てしまった。昭和４０年代後半（１９７０年代前半）、折からの離島ブームに乗って初島への観光客が増加の一途を辿り、特に夏場は来島者が集中したことで揚水量が増加したためである。このため原水の塩素イオン濃度も次第に上昇し、４，０００～９，０００mg/ℓを記録するに至った。これにより脱塩浄水装置の浄水能力も低下し、１日１００ｍ^３に半減してしまった。

昭和49～50年度（1974～75年度）には、浄水量が低下したことにより、やむなく7～8月に1日18時間の断水が行われた。その暫定策として、昭和51年度（1976年度）から夏期の41日間、給水船をチャーターして1日200m³の上水を本土より運搬することになった。

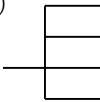
しかし、この措置も天候等に大きな影響を受け、悪天候時は6～7日も欠航するなど、気象条件に左右される不安定な実情を内包していた。また、運搬費用も800万円／年と高額な負担を伴うことも大きな問題であった。

もともと水資源に限界のある初島において、もはや小手先の対策では効果がないとして抜本的かつ恒久的な対策の検討がなされる。その中で提案されたのが「海底送水管布設」による本土からの送水である。

〔4〕初島海底送水事業

本事業は過去2回の事業と同様に離島振興法の適用を受け、国費としては「離島振興事業」における「簡易水道等施設整備費補助金」の交付対象となった。昭和54年度（1979年度）に静岡県知事の認可を受けた後、2ヶ年に渡って事業が実施され、昭和55年（1980年）7月17日に通水開始、それにより完全に水不足が解消された。

【計画の概要】

水	源	浄水受水（熱海市上水道より）			
計画給水人口	500人（当時237人）				
最大給水量	200m ³ ／日				
最大給水量	400ℓ（1人1日当り）				
平均給水量	264ℓ（1人1日当り）				
総事業費	578,118千円		国庫補助金	282,056 千円	
			県費補助金	94,018 千円	
			地方債	178,000 千円	
			自己財源	24,044 千円	
工	期	昭和54～55年度（1979～80年度）			

宮川浄水場（浄水能力7,500m³／日、標高約81.4m）から送配されている水を、網代字宮町222番地地先より分水し（同字朝日山529-34を経る）～初島側字家越山966番地地先間に海底送水管を布設、自然流下方式により既設配水池（RC造120m³、標高約32m）へ送水するものであった。

【 送水管布設概要 】

昭和 5 4 年度 (1979 年度)	本土陸上部分	DIP 250 mm × 5m	} 陸上部分 1,375m
	〃	DIP 150 mm × 1,050m	
	初島陸上部分	硬質塩ビ管 125 mm × 320m	
昭和 5 5 年度 (1980 年度)	海 底 部 分	二重鉄線鎧装(ポリエチレン管)125 mm × 6,551m	

海底送水管の最も深い箇所は、水深 1 0 2 m となっている。当時はこれほど深い海底に布設した事例がなく、また工法上埋設が困難なこと、更に海底部分が砂地であることを考慮して水深 4 2 m 以上の 4, 6 0 6 m については埋設せず、そのままの状態とした。ただしパイプは水が満たされた状態では比重 2. 4 4 となり、自重により外径部分程度は砂に埋まっていくものと期待されている。また、使用したパイプはポリエチレンを二重の鉄線で防護し、その間にジュートが詰め込まれている。鉄線は縄を編むように螺旋状にねじってあり、更に起点から終点に至るまで全く継ぎ目なく布設されている。



海底送水管

〔 5 〕 事業認可の変更

平成元年（1 9 8 9 年）9 月、島内のリゾート開発計画に伴い、事業の変更認可を行った。

【 変更内容 】

給 水 人 口 5 0 0 人 → 1, 2 0 0 人

1 日最大給水量 2 0 0 m³ → 1, 0 0 0 m³



初島送水 2 0 周年記念石碑

平成 1 2 年 (2000 年) 初島漁業協同組合施工

〔 6 〕 熱海市水道事業への統合

令和 2 年（2 0 2 0 年）3 月 3 1 日、離島初島簡易水道事業を廃止し、令和 2 年 4 月 1 日から熱海市水道事業へ統合するための関連例規改正や変更認可を令和元年度に行った。

〔 7 〕 海底送配水管の更新

昭和 5 5 年度に完成した海底送水管は、布設環境の厳しい接岸部では管の劣化や破損が生じ、部分補修工事を施しつつ安定した給水を維持してきたものの、令和 2 年度には耐用年数である 4 0 年を迎えることになり、初島の生活用水の安定供給を維持するためには海底送配水管の布設替が不可避な状況となった。そのため令和 2 年度に基本設計業務委託を実施し、最適な布設ルートや布設方法を調査設計した。その後、令和 4 年度末に契約を締結し、令和 6 年度に完成した。

【計画の概要】

水 源	浄水受水（熱海市上水道より）			
最大給水量	1,070 m ³ /日			
総事業費	1,909,050千円		国庫補助金	870,885 千円
			地方債	853,400 千円
			自己財源	184,765 千円

【送配水管布設概要】

海底送配水管（WNG） φ150 L=6,786.8m

端末継手 φ150 2 組

鋳鉄製防護管 φ250 2,212 組

ポリウレタン製防護管 1,533 組

防護施設工 一式

消波工 一式



台船の大型ドラムに巻き付けた更新管を海底に布設している様子

波付鋼管がい装ポリエチレン管（WNG）は、水が流れる導管に高密度 PE を使用し、SUS テープや波付鋼管にて内外圧に十分な強度を担保でき、最がい層には低密度 PE 管で被覆しているため塩害からの耐食性に優れている。また、可とう性に優れているため、海底面に沿った配管を行うことが可能である。

令和 5 年度に大分県で製作された継ぎ目の無い更新管は、台船の大型ドラム（鏝計 1 3 m）に巻き取られ熱海市に向け回航し、令和 6 年度に約 3 週間かけて海底に布設された。



海底送配水管（WNG）

5. 水道事業の現状と課題

〔1〕現状（特色）

- (1) 当市の水源は柿田川からの受水を主として、配水能力は1日約43,700m³が確保されており、水需要には十分対応できる量が確保されている。
- (2) 現在の水道普及率は、99.9%であり、他都市と比較して高い。
- (3) 水需要は生活用水のほか、観光都市という特殊性から時間変動差が激しく、日変動、週変動も大きい。これにより施設が大型化され施設利用率を下げている。

〔2〕課題

(1) 水源の確保

水源を確保していくためには水源地の^{かん}涵養保護区域の設定が必要である。また、山の手の水源については、直接取水方式のため雨天時の汚濁防止対策も必要である。

(2) 水の利用促進

当市は観光地という特殊事情から最大給水量に合わせた水を確保している。このため季節、祝祭日、観光行事等により生じる変動を考慮する必要がある。

(3) 施設の整備充実

- (ア) 低水圧地域や配水量不足地域の改善と老朽施設の対応など、維持管理に重点を置き、安定供給を図る。
- (イ) 不測の事態に対応するため、柿田川の受水と自己水源の効率的送配水、貯水施設の整備を推進する。
- (ウ) 地震災害対策として、配水池の耐震構造化、緊急遮断弁の設置等の整備を図る。

(4) 維持管理体制の充実

- (ア) 遠方集中監視システムを充実し、給配水の合理化を促進する。
- (イ) 施設配置図、送配水管の施設台帳を電算化し、管理の合理化を図る。

第2章 水道施設の概要

1. 水源一覧

自己水源一覧表

水系	水 源 名	種 別	最大取水能力 (m³/日)	計画浄水量 (m³/日)	備 考
泉 地 区	泉 水 源	表流水	3,000	2,850	①
	日 金 沢 水 源	湧 水	2,000	1,700	②
	泉 地 区 計		5,000	4,550	
熱 海 地 区	伊 豆 山 水 源	表流水	2,700	(2,700)	予備水源
	丹 那 隧 道 水 源	湧 水	37,500	15,000	③
	和 田 山 水 源	湧 水	1,000	1,000	④
	和 田 山 1 号 水 源	深井戸	1,000	(1000)	R6より休止
	和 田 山 井 戸	深井戸	1,800	1,800	R6より運用開始 ⑤
	土 橋 水 源	深井戸	2,100	2,100	⑥
	不 動 隧 道 水 源	湧 水	1,800	(500)	予備水源
	小 石 ヶ 沢 水 源	湧 水	900	860	R4運用開始 ⑦
	堰 下 水 源	湧 水	1,600	1,530	R4運用開始 ⑧
	橋 戸 水 源	湧 水	760	720	R4運用開始 ⑨
	相 の 原 水 源	湧 水	540	(540)	予備水源
	熱 海 地 区 計		51,700	23,010	
南 熱 海 地 区	宮 川 水 源	表流水	8,250	7,500	R2.3認可変更 ⑩
	中 野 第 2 水 源	深井戸	2,600	500	⑪
	下 多 賀 二 ノ 倉 水 源	湧 水	300	(300)	予備水源
	上 多 賀 水 源	湧 水	1,000	520	(上多賀第1水源) ⑫
	上 多 賀 第 2 水 源	湧 水	400	(400)	予備水源
	和 田 木 第 1 水 源	湧 水	800	800	⑬
	南 熱 海 地 区 計		13,350	9,320	
自 己 水 源 1 1 ヶ 所			70,050	36,880	() 水量は含まず

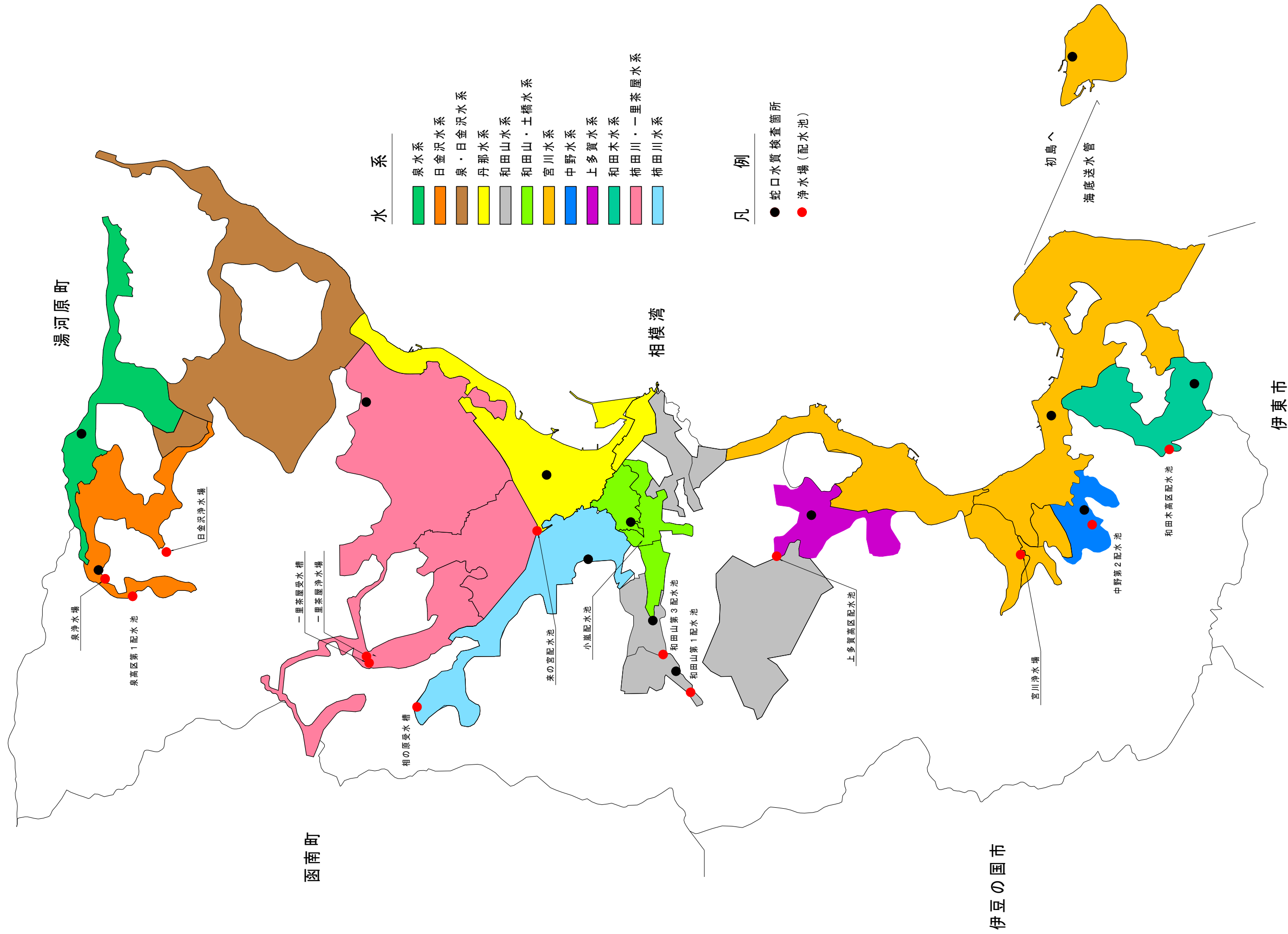
() は整備中及び予備水源

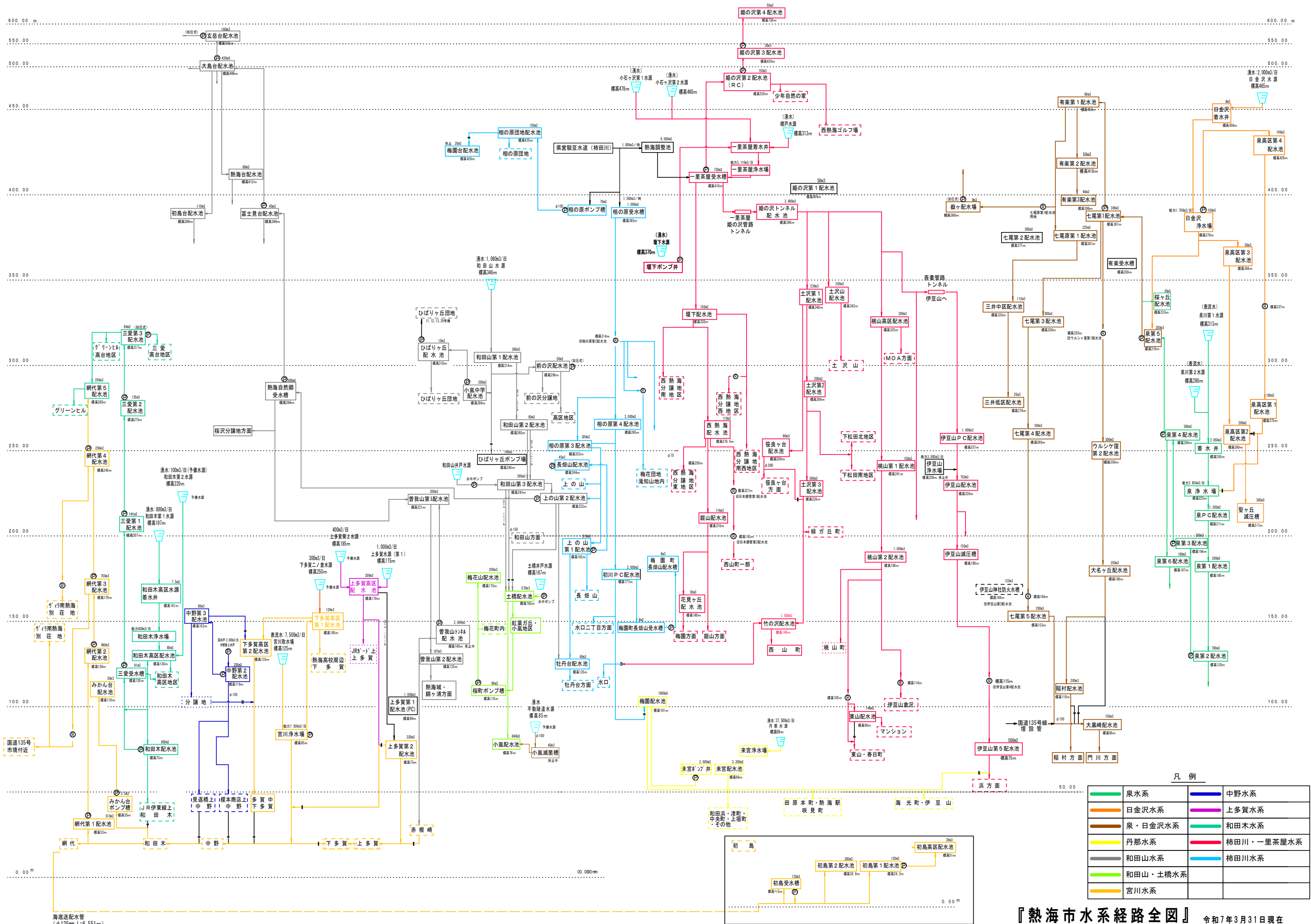
県営水道受水一覧表

水系	水源名	種別	最大受水量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	計画最大配水量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	備考
駿 豆	一 里 茶 屋 受 水	浄 水	28,800	28,800	柿田川第一水系 ⑭
	相 の 原 受 水	浄 水	31,200	31,200	柿田川第二水系 ⑮
県 水 受 水 2 ヶ 所			60,000	60,000	

合 計			130,050	96,880	() 水量は含まず
------------	--	--	----------------	---------------	------------

熱海市水道水系図（現状）





『熱海市水系経路全図』 令和7年3月31日現在

2. 浄水場一覧

水 源	浄 水 場 名	浄 水 方 式	浄 水 能 力 (m3/日)	築 造 年 度	所 在 地	備 考 (テレメータ◎ /FOMA△)
泉	泉 浄 水 場	膜ろ過方式	2,850	H27	泉元宮上分字奥西山 415	△
日 金 沢	日 金 沢 浄 水 場	紫外線処理方式	1,700	R4	泉元宮上分字奥西山 413-492	△
伊 豆 山	伊 豆 山 浄 水 場	急速ろ過方式	3,000	S45	伊豆山字上寺山 1066-3	S52休止 △
小石ヶ沢第1・2 橋戸堰下	一 里 茶 屋 浄 水 場	急速ろ過方式	3,110	R4	熱海字笹尻1803-3	△
丹 那	来 宮 浄 水 場	マイクロストレーナー	22,000	S37	福道町 1114-5	◎
宮 川	宮 川 浄 水 場	急速ろ過方式	7,500	S39	下多賀字菖蒲沢 1120-1	△
和田木第1	和 田 木 浄 水 場	膜ろ過方式	800	R6	下多賀字南ヶ洞1694	△



泉浄水場 膜ろ過装置



来宮浄水場 マイクロストレーナー



宮川浄水場 沈殿池

3. 配水池一覧

水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m ³	築造 年度	所在地	備考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
泉	泉 P C 配水池	204.7	01002	1,500	H3	泉元宮上分字大ゴウシ 428-95	緊急遮断弁 残留塩素計 △
	泉 第 1 配水池	179.5	01003	200	S44	泉元宮上分字中沢下 233-61	
	泉 第 2 配水池	133.5	01004	700	R4	泉元宮上分字寺坂 139-5	水中送水P 緊急遮断弁 ◎
	泉 第 3 配水池	193.3	01005	300	S43	泉元宮上分字ニッケ山 277-5	陸上送水P △
	泉 第 4 配水池	253.6	01006	300	S43	泉元宮上分字ニッケ山 276-23	陸上送水P ◎
	ゆ ず り 葉 配水池	295.1	-	200	S48	泉元宮上分字ニッケ山 276-153	H25休止
	泉 第 6 配水池	182.4	01009	180	H9	泉元宮上分字徳田ヶ窪 296-31	2池 緊急遮断弁
泉 ・ 日 金 沢	泉 第 5 配水池	318.7	01008	300	S44	泉元宮上分字平沢台 413-1	陸上送水P ◎
	泉 桜ヶ丘配水池	333.4		10		泉元宮上分字ニッケ山 286-193	令和元年寄付 △
	七 尾 第 1 配水池	384.2	01010	300	S44	泉元宮上分字平沢台 412-279	水中送水P H23水系変更 ◎
	七 尾 第 2 配水池	374.6	03094	300	S45	伊豆山字七尾原 1173-332	R3土石流にて配 水系統変更休止
	七 尾 第 3 配水池	323.2	03095	300	S46	伊豆山字七尾原 1173-312	2池 △
	七 尾 第 4 配水池	263.6	03096	100	H4	伊豆山字大畑 1125-24 1125-90	2池 △
	七 尾 第 5 配水池	152.6	03097	200	S45	伊豆山字耳尾 859-3	△
	大 黒 崎 配水池	87.4	03092	150	S49	泉元門川分字大黒崎 250-5	高架配水槽
	ウルシヶ窪第1配水池	311.1	-	200	S50	泉元宮上分字平沢台 412-156	H23水系変更 H30減圧弁室変更
	ウルシヶ窪第2配水池	239.4	12012	150	S51	泉元門川分ウルシヶ窪 154-11	H23水系変更 H30減圧弁設置 R5減圧弁撤去
	大 名 ヶ 丘 配水池	187.8	01013	250	S45	泉元宮上分字大洞 411-207	H23水系変更
	稲 村 配 水池	106.6	01014	200	S45	伊豆山字稲村 333-2	H23水系変更
	有楽受水槽(ポンプ室)	356.5	01015	22	S55	伊豆山字太夫田 1130-48	H2有楽土地隣 水中送水P H23水系変更・R4休止
	有楽第1配水池(高区)	454.1	01016	90	S55	伊豆山字七尾原 1173-558	H2有楽土地隣受 H23水系変更 ◎
	有楽第2配水池(中区)	412.9	01017	50	S55	伊豆山字七尾原 1173-515	H2有楽土地隣受 H23水系変更・R4休止
	有楽第3配水池(低区)	392.0	01018	40	S55	伊豆山字七尾原 1173-542	H2有楽土地隣受 H23水系変更・R4休止
	七 尾 原 第 1 配水池	387.2	-	200	H10	伊豆山字七尾原 1173-717	H10大成受 2池 未使用 R3使用開始 △
	嶽 ヶ 配 水池	380.1	03089	9	H28	伊豆山字嶽ヶ1172-259	H28総合地所受 配水用P加圧
	三 井 中 区 配水池	332.4	03090	112	S48	伊豆山字水立 1084-272	三井不動産分譲
	三 井 低 区 配水池	275.5	03091	25	S48	伊豆山字水立 1084-266	三井不動産分譲
日 金 沢	泉 高 区 第 1 配水池	275.6	02019	100	S43	泉元宮上分字奥西山 413-1	★
	泉 高 区 第 2 配水池	260.9	02020	200	S44	泉元宮上分字中沢上 240-108	
	泉 高 区 第 3 配水池	363.5	02021	50	S59	泉元宮上分字奥西山 413-481	2池 ★
	泉 高 区 第 4 配水池	428.7	02022	100	S62	泉元宮上分字奥西山 413-233	2池 △
	聖 ヶ 丘 減 圧 槽	216.8	02023	30	S48	泉元宮上分字水口沢上251-16	H15受 ハザマ地所

※ 標 高 は L.W.L とする

水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m ³	築造 年度	所在地	備 考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
柿 田 川	相 の 原 受 水 槽	386.6	03024	1,000	S47	熱海字笹尻 1804-93	2池 H21・22耐震補強 緊急遮断弁 △
	相 の 原 ポ ン プ 槽	386.6	03025	70	S47		水中送水P
	相 の 原 団 地 配 水 池	435.0	03026	150	S44	熱海字滝知山 1804-74	2池 ★
	相 の 原 第 2 配 水 池	308.3	-	300	S49	相の原町 1809-32	H29減圧弁室に変更
	滝 知 山 配 水 池	255.0	-	60	S44	相の原町 1812	休止
	相 の 原 第 3 配 水 池	256.2	03029	300	S49	相の原町 1812-404	
	三 本 松 配 水 池	165.0	-	100	S50	熱海字長畑山 1829-1	休止 防火水槽
	梅 園 台 受 水 槽		-	25	S44	相の原町 1812-362	H16受 H19休止 H21払下げ
	梅 園 台 中 継 槽		-	10	S44		H16受 H19休止
	梅 園 台 配 水 池	420.0	-	20	S44	相の原町 1811-71	H16休止
	梅園町長畑山受水槽	140.0	03032	6	S49	梅園町 1825-1	H17受 FRP
	梅園町長畑山配水槽	178.0	03033	8	S49	梅園町 1825-18	H17受 FRP
	上 の 山 第 1 配 水 池 (1)	190.3	03034	210	S42	熱海字上の山 1856-6	◎
	上 の 山 第 1 配 水 池 (2)	190.0		43	H19	熱海字上の山 1856-6	H19受 SUS
	長 畑 山 配 水 池	244.4	03035	45	H19	熱海字長畑山 1831-41	H19受 緊急遮断弁 ★
	上 の 山 第 2 配 水 池	217.3	03036	300	S49	熱海字前の沢 1865-59 地先	H20 2池に変更 ◎
	水 口 第 1 配 水 池	128.7	-	300	H1	小嵐町 1862-51	受・休止 2池
	牡 丹 台 配 水 池	127.4	03038	60	H8	小嵐町 1862	2池(2階)
	相 の 原 第 4 配 水 池	254.7	03039	3,000	H4	熱海字笹尻 1804-37	緊急遮断弁 PC △
	初 川 配 水 池 R C	165.0	-	1,356	S41	熱海字銀山 1793-88	2池 H23休止
	初 川 P C 配 水 池	166.7	03041	2,000	S51	熱海字銀山 1793-60	緊急遮断弁 △
柿 田 川 ・ 一 里 茶 屋	一 里 茶 屋 受 水 槽	406.9	03049	750	S47	熱海字笹尻 1803-3	水中ポンプ H27 耐震補強 緊急遮断弁 2池 △
	堰 下 配 水 池	330.4	03050	150	S41	熱海字堰下 1800-116	
	西 熱 海 配 水 池	276.5	03054	110	H27	西熱海町二丁目 1785-66	緊急遮断弁 △
	西 熱 海 減 圧 槽	284.4	-	50	S41	熱海字堰下 1800-192	H27休止
	日 本 鋼 管 第 1 配 水 池	227.3	-	20	S40	熱海字若林 1780-143	H23休止
	日 本 鋼 管 第 2 配 水 池	192.8	-	60	S42	熱海字地前面 1767-2	H23休止
	銀 山 配 水 池	207.0	03055	116	S40	梅園町 1781	2池 △
	花 見 ヱ 丘 配 水 池	155.6	03056	30	S59	梅園町 1780-240	S59受 伊藤忠
	西 熱 海 第 1 配 水 池	305.0	-	50	S44	熱海字堰下 1800-439	H25休止
	西 熱 海 第 2 配 水 池	284.7	-	50	S44	熱海字堰下 1800-438	H27休止
	西 熱 海 第 3 配 水 池	254.8	-	50	S44	熱海字堰下 1763-302	H28休止
	西 熱 海 第 4 配 水 池	244.7	-	30	S44	熱海字堰下 1793-47	H24休止

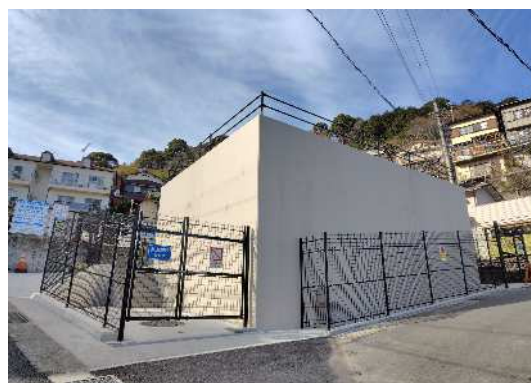
水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m ³	築造 年度	所在地	備考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
柿 田 川 ・ 一 里 茶 屋	姫の沢第1配水池	401.0	03061	50	S52	熱海字堰下 1800	陸上P FRP R4休止
	姫の沢第2配水池	527.6	03062	150	S54	姫の沢公園地内	水中P △
	姫の沢第3配水池	620.0	03063	30	H2	伊豆山字姫の沢地内	水中P FRP 2池 ★
	姫の沢第4配水池	733.4	03064	50	H2	伊豆山字日金山地内	2池 ◎
	姫の沢トンネル配水池	385.0	03065	3,400	S49	伊豆山字姫の沢 1164-1	△
	土沢第1配水池	337.1	03066	230	S36	伊豆山字土沢 965-4	2池 S50スラフ*施工 △
	土沢山配水池	337.6	03067	200	S53	伊豆山字土沢山 1048-35	2池 ★
	笹良ヶ台配水池	251.6	03068	80	S33	熱海市字笹良ヶ台 1757-8	2池×2
	土沢第2配水池	281.7	03069	200	S48	熱海字下松田 1748-52	△
	土沢第3配水池	225.7	03070	300	S50	熱海字下松田 1748-30	△
	竹の沢配水池	151.3	-	1,200	S28	西山町 1760-2	1,200m ³ 2池
	竹の沢配水池(増設)	151.3	03071	1,500	S40	西山町 1760-2	1,500m ³ 2池 △
	土沢配水池	336.0	-	100	S44	伊豆山字土沢 962-8	
	下松田第1配水池	265.0	-	138	S41	緑ガ丘町 1745-208	休止
	下松田第2配水池	260.0	-	24	S25	緑ガ丘町 1745-2	休止
	桃山高区配水池	320.4	03075	300	S49	伊豆山字土沢山 1048-33	△
	桃山第1配水池	239.6	03076	150	S26	伊豆山字鉢アラク 989-11	△
	桃山第2配水池	184.9	03077	1,000	S37	桃山町 985-1	緊急遮断弁 △
	東山配水池	98.8	03078	140	S51	春日町 1713-24	高架配水槽
	伊豆山P C配水池	257.5	03079	1,000	S55	伊豆山字上寺山 1065-3	緊急遮断弁
	伊豆山配水池	234.5	03081	750	S45	伊豆山字上寺山 1066-3	2池 △
	伊豆山第1配水池	190.1	03082	125	S35	伊豆山字赤井谷 1077-16	S45受 R3土石流にて休止
	伊豆山第2配水池	-	-	125	S39	伊豆山字上野地 708-2	伊豆山神社 防火貯水槽転用
	伊豆山第3配水池	-	-			伊豆山字寺山 430-7	伊豆山浄水場下 排水池使用中
	伊豆山第4配水池		-	280	S45	伊豆山字坂西 531-10	H6廃止 減圧弁へ
	伊豆山第5配水池	72.3	03084	500	S44	伊豆山字坂東 668-20	緊急遮断弁 残留塩素計 △
	伊豆山第6配水池		-	48	S44	伊豆山字浜 679-1	廃止
	伊豆山第7配水池		-				廃止撤去
	伊豆山減圧槽	186.8	03085	150	S45	伊豆山字堀坂 433-12	△
	伊豆山第8配水池	102.1	-	10	S44	伊豆山字倉沢 198	H26休止
	伊豆山ポンプ場	340.9	03087	140	S54	伊豆山字宝司ヶ嶽 1075-1	水中送水P R3土石流にて休止 ★
	七尾調圧槽	405.3	03088	300	S54	伊豆山字赤井谷 1076-3	R3土石流にて休止 ★

水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m ³	築造 年度	所在地	備 考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
丹 那	来 宮 ポ ン プ 井	62.9	04104	2,000	S43	福道町 1114-1	水中浄水P・送水P ◎
	来 宮 配 水 池	60.2	04105	3,200	H29	福道町 700-14	ステンレス製交換 2池 緊急遮断弁 ★
	林ヶ久保配水池	97.0	-	3,000	S37	林ガ丘町1733-1	緊急遮断弁 H23水系変更 休止
	梅 園 配 水 池	100.4	04108	1,900	H24	梅園町1829-29	ステンレス製 2池 緊急遮断弁 ◎
和 田 山	和 田 山 第 1 配 水 池	308.8	05109	260	S56	熱海字寺山 1889-142	2池 ★
	ひばりヶ丘中継ポンプ槽	237.2	05110	40	S37	熱海字奥の沢 1886-17	水中送水P・R1休止
	ひばりヶ丘中継ポンプ槽(増設)	237.4		150	S54	熱海字奥の沢 1886-17	水中送水P・R1休止
	前 の 沢 配 水 池	296.6	05111	50	S48	熱海字前の沢 1885-17	水中送水P加圧 伊豆箱根鉄道受贈
	和 田 山 第 2 配 水 池	268.9	05112	30	H28	熱海字寺山 1889-29	改修(新築) △
	和 田 山 第 3 配 水 池	243.2	05113	260	R6	熱海字寺山1888-72	井戸水中P △
	和 田 山 第 3 配 水 池 (旧 配 水 池)	227.8	05113	117	S40	熱海字寺山 1889-31	井戸水中P・R6休 止 (旧配水池) ★
	小 嵐 中 学 配 水 池	283.5	05114	175	S54	熱海字奥の沢 1886-1	H25休止・R1復活 △
	ひ ば り ヶ 丘 配 水 池	310.0		10	R1	熱海字奥の沢 1886	★
	ひばりヶ丘第1配水池	330.0	05115	70	S35	熱海字奥の沢 1886	R1休止
	ひばりヶ丘第2配水池	300.4	05116	50	S37	熱海字奥の沢 1886	R1休止
	熱 海 自 然 郷 受 水 槽	283.4	03098	300	H19	熱海字梅花山 1952-11	H20コマツゼ'ネラル受 緊急遮断弁 ◎
	熱海自然郷富士見台配水池	389.4	03099	45	H19	上多賀字藤広地 1066-1	H20コマツゼ'ネラル受 ◎
	熱海自然郷大島台配水池	495.9	03100	420	H19	上多賀字藤広地 1065-1673	H20コマツゼ'ネラル受 緊急遮断弁 ◎
	熱海自然郷熱海台配水池	411.5	03101	60	H4	上多賀字藤広地 1066-408	H20コマツゼ'ネラル受 緊急遮断弁 ◎
	熱海自然郷初島台配水池	387.8	03102	110	H19	上多賀字藤広地 1065-536	H20コマツゼ'ネラル受 緊急遮断弁 ◎
	熱海自然郷玄岳台配水池	581.3	03103	165	H19	上多賀字藤広地 1065-1669	H20コマツゼ'ネラル受 緊急遮断弁 ◎
	曾 我 山 ト ン ネ ル 配 水 池	141.1	03042	2,600	S43	桜木町 1962-76	水中送水P・R5休止 △
	曾 我 山 第 1 配 水 池	219.1	03043	200	S40	熱海字曾我山 1993-270	△
	曾 我 山 第 2 配 水 池	127.9	03044	107	S40	熱海字曾我山 1993-269	2池
和 田 山 ・ 土 橋	桜 木 町 配 水 池	265.0	-	50	S46	桜木町 1962-86	H26休止
	桜 木 町 高 架 水 槽		-	3		桜木町 1962-86	H6弘洋 廃止
	桜 木 町 受 水 槽		-	2		熱海字曾我山 1993-207	H6弘洋 廃止
	土 橋 配 水 池	167.0	05117	570	H29	熱海字西ヶ久保 1908-7	水中取水導水P 緊急遮断弁 △
	桜 町 ポ ン プ 槽	100.7	05118	80	S45	桜町 1944-3	水中送水P H23水系変更 △
和 田 山 ・ 土 橋	梅 花 山 配 水 池	174.2	05119	200	S45	梅花町 1955-4	H23水系変更 ★
	小 嵐 配 水 池	74.4	05120	640	S40	桜町 1666-5	2池 H24耐震補強 緊急遮断弁 △
	小 嵐 滅 菌 槽	80.7	-	90	S25	桜町 1671-16	H29休止

水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m ³	築造 年度	所在地	備 考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
上多賀	上多賀高区配水池	177.4	07122	200	S45	上多賀字三地山 1037-53	
	上多賀第1配水池(PC)	88.2	03048	1,000	S52	上多賀字町場道 1016-6	緊急遮断弁・R2休止 ◎
宮川	宮川浄水場・配水池	81.4	08123	3,388	S39	下多賀字菖蒲沢 1120-1	1,680m ³ 2池 緊急遮断弁 △
	宮川浄水場・配水池(増設)	81.4			S42	下多賀字菖蒲沢 1120-1	1,708m ³ 2池
	上多賀第2配水池(RC)	76.9	08124	330	S33	上多賀字外田 597-4	★
	みかん台ポンプ槽	33.8	08125	3.5	S62受	下多賀字宮下 43	水中送水P S62受贈 △
	みかん台配水池	101.5	08126	30	S62受	下多賀字杉山洞 1718-38 " 1718-20	S62受贈 △
	網代第1配水池	32.0	08127	510	S28	網代字湯ヶ谷 460-1	水中送水P 2池 ◎
	網代第2配水池	124.7	08128	100	S40	網代字朝日山 540-2	100m ³ 水中送水P ◎
	網代第2配水池	124.6		360	S44	網代字朝日山 540-2	360m ³ 水中送水P
	網代第3配水池	182.4	08129	250	S42	網代字湯ヶ谷 572-3	250m ³ 水中送水P ◎
	網代第3配水池	180.7		500	S55	網代字湯ヶ谷 572-14	500m ³ 2池
	網代第4配水池	253.3	08130	250	S43	伊東市宇佐美字留田 3594-679	水中送水P ◎
	ヴィラ南熱海配水池	163.6	-	40	S51	網代字網代山 627-318	H4山万受贈P H28廃止
	初島受水槽	-	08132	120	H12	初島字家越山	簡水 △
	初島第1配水池	29.2	08133	120	S46	初島字家越 104	簡水 水中送水P 2池 △
	初島第2配水池	28.9	08134	300	H5	初島字家越 104	簡水 S39 30m ³ 改築 2池 残留塩素計
	初島高区配水池	51.0	08135	20	H7	初島字清寿山 1082-5	簡水 2池 ★



来宮配水池



和田山第3配水池

水系	配水池名	標高 m	配水池 番号	容積 m³	築造 年度	所在地	備考 (テレメータ◎/リレー線★ /LTE(FOMA)△)
宮川	下多賀高区第1配水池	151.1	09136	120	S41	下多賀字瘤木 1494-304	★
	下多賀配水槽		-	190	S30	下多賀字位久保 1192-4	H27払下げ
	下多賀高区第2配水池	136.5	09137	350	S45	下多賀字已込 1538-7	150㎡ 水中取水導水P H23水系変更 ◎
	下多賀高区第2配水池(増設)	136.4			S59	下多賀字已込 1538-7	200㎡
中野	中野第1配水池		-	100	S41	下多賀字大畑 675-3	廃止
	中野第2配水池	118.0	10138	200	S46	下多賀字已込 1548 団地	水中取水導水P 水中送水P ◎
	中野第3配水池	154.2	10139	80	H16	下多賀字栄盛久保9-45	ステンレス製交換 2池 緊急遮断弁 ★
和田木	和田木高区配水池	130.1	11140	80	H13	下多賀字南ヶ洞 1694	ステンレス製交換 2池 緊急遮断弁
	和田木配水池	77.5	11142	400	R1	下多賀字新田 341-2	ステンレス製交換 2池 緊急遮断弁 △
	和田木配水槽	48.0	-	54	S27	下多賀字焼野 332-1	水中送水P 未使用 休止
	三愛受水槽	117.4	11144	91	S53	下多賀字湯ヶ洞 1702-685	◎
	三愛第1配水池	204.2	11145	141	S53	下多賀字湯ヶ洞 1702-705	◎
	三愛第2配水池	272.7	11146	135	S53	下多賀字湯ヶ洞 1702-690	◎
	三愛第3配水池	316.2	11147	66	S53	下多賀字湯ヶ洞 1702-704	◎
	網代第5配水池	290.3	11148	250	H5	下多賀字杉山洞 1714-317	2池 緊急遮断弁 H23水系変更 ◎

池数と容積は、廃止・休止配水池を含まない。又、合体した2池以上の池数は1池として計算。

水系	池数	容積 m³	テレメータ数	リレー数	LTE数
泉	6	3,180	2	0	2
泉・日金沢	15	2,396	3	0	5
日金沢	5	480	0	2	1
柿田川	13	7,192	2	2	3
柿田川・一里茶屋	23	11,286	1	2	15
丹那	3	7,100	2	1	0
和田山	14	2,192	6	2	4
和田山・土橋	4	1,490	0	1	3
不動隧道	0	0	0	0	0
上多賀	1	200	0	0	0
宮川	17	6,751.5	5	3	5
下多賀二ノ倉	0	0	0	0	0
中野	2	280	1	1	0
和田木	7	1,163	5	1	1
計	110	43,710.5	27	15	39

4-1. 緊急遮断装置設置一覧

水系	配水池名	配水池番号	容積 m ³		設置 年度	口径	型式	製造所	備考	
泉	泉 P C 配水池	01002	1,500		H5	300	GS-10	SK	Q	B
	泉 第 2 配水池	01004	700	(350)	R4	200	MTB-A15-G-A	M	Q+E	ウエイト式
	泉 第 6 配水池	01009	180		H9	100		SS	Q+E	B
					H9	100		SS	Q+E	B
柿田川	相 の 原 受 水 槽	03024	1,000		H12	200		M	Q+E	M付 (DEG)
					H12	350		M	Q+E	M付 (DEG)
	相 の 原 第 4 配水池	03039	3,000		H4	400		SK	Q	B
	初 川 P C 配水池	03041	2,000		H7	400	EC-ERA	K	Q+E	B (DEG)
	長 畑 山 配水池	03035	45		H19	100		V	Q+B	M付
	上多賀第1配水池 (P C)	03048	1,000		H9	400		K	Q+E	ups
柿田川・一里茶屋	一里茶屋受水槽	03049	750	(375)	R4	250	MTB-A15-G-A	M	Q+E	ウエイト式
				H19	400		SG	Q+E	M付	
	西 熱 海 配水池	03054	110	(55)	H27	100	EIM7N-MA	V	E	M付
	桃 山 第 2 配水池	03077	1,000		S55	200	EC-EN	K	Q	B
	伊 豆 山 P C 配水池	03079	1,000		H8	200	EC-ERA	K	Q	B
伊 豆 山 第 5 配水池	03084	500		H11	200	LTKD	SG	Q+E		
丹那	来 宮 配水池	04106	3,200	(1,600)	H29	400	MTB-A15-G-A	M	Q	ウエイト式
	梅 園 配水池	04108	1,900	(950)	H24	350		M	Q+E	M付
和田山	和 田 山 第 3 配水池	05113	260	(130)	R6	100		M		
	熱 海 自 然 郷 受 水 槽	03098	300		H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups (DEG)
	熱海自然郷富士見台配水池	03-099	45		H19	50			Q+E	B
	熱海自然郷大島台配水池	03100	420		H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups (DEG)
					H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups (DEG)
	熱海自然郷熱海台配水池	03101	60		H19	80	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups
	熱海自然郷初島台配水池	03102	110		H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups
					H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups
					H19	100	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups
熱海自然郷玄岳台配水池	03103	159		H19	80	EXS100-3	KZ	Q (E)	ups	
和田山・土橋	土 橋 配水池	05117	570	(285)	H29	150	AC17-0322-11	SG	Q+E	M付 ups
	小 嵐 配水池	06120	640	(320)	H17	200		T	Q+E	
				H17	200		T	Q+E		

製造所記号

備考内記号

V:ベン

KZ:北沢バルブ

SK:水道機工

Q:流量

M付:電動式

H:日立

M:前澤工業

SS:セキスイ

E:地震計

ups:無停電電源装置

K:クボタ

SG:清水合金

T:トモエバルブ

B:バッテリー

DEG:自家発電機

水系	配水池名	配水池番号	容積 m ³		設置 年度	口径	型式	製造所	備 考	
宮 川	宮 川 浄 水 場		総容積 3,388	(1,694)	S59	350		T	Q	M付 (DEG)
	宮 川 浄 水 場 (増 設)				S59	350		T	Q	M付 (DEG)
中 野	中 野 第 3 配 水 池	10139	80		H16	100		H	Q+E	
					H16	100		H	Q+E	
和 田 木	和 田 木 高 区 配 水 池	11141	80		H13	100		KZ	Q+E	M付
					H13	100		KZ	Q+E	M付
	和 田 木 配 水 池	11142	400	(200)	R1	150	MTB-A15-G-A	M	Q+E	ウエイト式
	網 代 第 5 配 水 池	11148	250		H6	200		K	Q	機械式

製造所記号

備考内記号

V:ベン

KZ:北沢バルブ

SK:水道機工

Q:流量

M付:電動式

H:日立

M:前澤工業

SS:セキスイ

E:地震計

ups:無停電電源装置

K:クボタ

SG:清水合金

T:トモエバルブ

B:バッテリー

DEG:自家発電機



来宮配水池



泉第2配水池

4-2. 非常用発電機設置一覧

水系	配水池名	(KVA) 発電機用量	(ℓ) F.O容量	(ℓ/h) F.O消費量	(ℓ) L.O.	(ℓ) LLC.	設置年	燃料	備考
泉	泉 浄 水 場	75	500.0	19.6	13.5	24.0	2016	K	西発
日金沢	日 金 沢 浄 水 場	39	198.0	10.7	5.6	2.7	2024	K	ヤンマー
日金沢・泉	泉 第 5 配 水 池	200	190.0	42.0	23.0	20.0	2022	K	ヤンマー
柿	相 の 原 受 水 槽	5	18.0	2.6	1.1	—	2000	G	ヤマハ
田	初 川 監 視 セ ン タ ー	5	9.5	1.4	2.3	2.2	1989	K	ヤンマー 移設
川	上 の 山 第 2 配 水 池	80	195.0	18.0	22.4	22.0	2008	K	イスズ
一柿 里田 茶川 屋・	一 里 茶 屋 浄 水 場	27	198.0	7.8	7.2	2.7	2022	K	ヤンマー
	堰 下 水 源	90	600.0	23.1	18.0	12.0	2022	K	ヤンマー
	伊 豆 山 ポ ン プ 室	125	572.4	20.0	21.0	32.0	1990	K	日野 R3土石流休止
和	自 然 郷 受 水 槽	80	195.0	18.0	22.4	22.0	2008	K	イスズ
田	自 然 郷 富 士 見 台 配 水 池	80	195.0	18.0	22.4	22.0	2008	K	イスズ
山	自 然 郷 大 島 台 配 水 池	50	125.0	11.6	16.5	12.2	2008	K	日野
丹	来 宮 浄 水 場	200	1402.4	20.0	60.0	42.0	1989	A	ヤンマー
那	林 ヶ 久 保 配 水 池	3	6.5	1.1	1.9	1.7	08		
土橋	土 橋 配 水 池	5	18.0	2.6	1.1	—	2002		H28撤去
宮川	宮 川 浄 水 場	30	30.0	7.7	8.6	6.7	2011	K	ヤンマー 移設



一里茶屋浄水場



堰下ポンプ場

5. ポンプ施設一覧

取水導水ポンプ一覧表

水系	配水池名	配水池番号	容積 m ³	口径	型式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備考
堰下	堰下ポンプ井	3049	35	100	100MS4522B	1.10	59.0	1,470	22.0	R3新
				100	100MS4522B	1.10	59.0	1,470	22.0	R3新
和田山・土橋	土橋井戸	05117	850	125	125BHS2	1.18	49.0	2,820	18.5	S61 H15取替
	和田山第1井戸	05113	117	100	100BHS	1.00	42.0	2,830	11.0	H13取替 R6休止
	和田山井戸	05113	260	100	US2-1005-22C	1.25	77.5	3,000	22.0	R5新 R6運用開始
中野	中野井戸	10138	200	125	US2-1255-22C	1.80	51.5	3,000	22.0	H14,H20,R2取替
						5.33	—	—	84.5	

送水施設ポンプ一覧表

水系	配水池名	配水池番号	容積 m ³	口径	型式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備考
泉	泉浄水場	01001	—	40	40BHS353.7	0.10	68.0	2,900	3.7	H7.3 H27廃止
				—	—	—	—	—	—	
	泉第2配水池	01004	700	100	100BMSP2530	1.40	74.0	3,000	30.0	R4更新
				100	100BMSP2530	1.40	74.0	3,000	30.0	R4更新
	泉第3配水池	01005	300	125	125MS4M	1.83	80.0	1,450	37.0	H8泉第5より移設
				125	125MS4M	1.83	80.0	1,450	37.0	H8泉第2より移管
	泉第4配水池	01006	300	125	125MS4537	1.55	88.0	1,450	37.0	H8.3取替 H19電弁H20修繕
				125	125MS4537	1.55	70.0	1,450	37.0	H9泉第2より H19電弁
泉・ 日金沢	泉第5配水池	01008	300	150	150MS4203M	1.94	86.0	1,475	45.0	R4更新
				150	150MS4203M	1.94	86.0	1,475	45.0	R4更新
	有楽受水槽	01015	20	80	SBWP2200NTD2	0.60	120.0	2,870	22.0	H7取替・R4休止
				80	SBWP2200NTD2	0.60	120.0	2,870	22.0	アキュムレータ・R4休止
	七尾第1配水池	01010	300	65	KUR2-655-11	0.60	70.0	3,000	11.0	R5更新
				65	KUR2-655-11	0.60	70.0	3,000	11.0	R5更新
日金沢	日金沢浄水池		100	40	40BMSP555.5A	0.21	82.9	2,880	5.5	R4新
				40	40BMSP555.5A	0.21	82.9	2,880	5.5	R4新
柿田川	相の原ポンプ槽	03025	70	65	65BMSP4511A	0.208	70.0	2,900	11.0	H4移設 H21取替
				65	65BMS5511	0.208	70.0	2,900	11.0	H4移設
	曾我山トンネル配水池	03042	2,600	125	125BMS2545	1.70	100.0	2,920	45.0	S62 R3電源休止
				125	125BMS2545	1.70	100.0	2,920	45.0	S62 R3電源休止
	曾我山第1配水池	03043	200	65	65BMS357.5	0.40	60.0	3,000	7.5	H8交換 H26電源休止
				65	65BMS357.5	0.40	60.0	3,000	7.5	H8交換 H26電源休止

送 水 施 設 ポ ン プ ー 覧 表

水系	配 水 池 名	配水池 番 号	容 積 m ³	口 径	型 式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備 考
柿 田 川	梅 園 台 受 水 槽	-	25	65	65MS	0.35	82.0	1,450	11.0	H16受 H17休止 H19廃 H22払下げ
				65	65MS	0.35	82.0	1,450	11.0	
	梅 園 台 中 継 槽	-	10	65	65MS	0.28	52.0	1,450	5.5	
				65	65MS	0.28	52.0	1,450	5.5	
	梅園町長畑山受水槽	03032		50	50MS655.5	0.28	51.0	1,440	5.5	H17受 6t p
				50	50MS655.5	0.28	51.0	1,440	5.5	H17受 6t p
	上の山第1配水池(2)	03034	43	40	40EVM L853	0.15	65.0	3,000	3.0	H19受
				40	40EVM L853	0.15	65.0	3,000	3.0	H19受
柿 田 川 ・ 一 里 茶 屋	一 里 茶 屋 受 水 槽	03049	750	40	KUR2-405-7.5	0.15	128.0	2,970	7.5	R4更新
				40	KUR2-405-7.5	0.15	128.0	2,970	7.5	R4更新
	姫 の 沢 第 1 配 水 池	03061	50	80/65	80/65MSH4M	0.45	150.0	2,950	22.0	S54 R4廃止
				80/65	80/65MSH4M	0.45	150.0	2,950	22.0	S54 R4廃止
	姫 の 沢 第 2 配 水 池	03062	150	65	65BMS5515	0.40	120.0	2,930	15.0	H3.5
				65	65BMS5515	0.40	120.0	2,930	15.0	H3.5
	姫 の 沢 第 3 配 水 池	03063	30	65	65BMS5515	0.40	110.0	2,930	15.0	H3.5
				65	65BMS5515	0.40	110.0	2,930	15.0	H3.5
	伊 豆 山 ポ ン プ 場	03087	140	125	JU125X2-545	2.20	80.0	2,900	45.0	S54, H7.3取替 圧力補機類
				125	JU125X2-545	2.20	80.0	2,900	45.0	S54, H19取替 R3土石流にて休止
	七 尾 原 配 水 池	-	200			1.00	130.0	3,000	37.0	H10受 休止
						1.00	130.0	3,000	37.0	H10受 休止
丹 那	来 宮 ポ ン プ 井 3 台	04105	2,000	125	CAL-125-400	2.61	52.0	1,470	37.0	H24 P交換
				125	CAL-125-400	2.61	52.0	1,470	37.0	H24 P交換
				125	CAL-125-400	2.61	52.0	1,470	37.0	H24 P交換
和 田 山	ひばりヶ丘 中継ポンプ槽	05110	40	65	BMSP6515A	0.335	129.0	2,950	15.0	団地 S57,H11交換 R2電源休止
				65	BMSP6515A	0.335	129.0	2,950	15.0	団地 S57,H11交換 R2電源休止
	ひばりヶ丘 中継ポンプ槽(増設)	05110	150	80	80BMS2515	0.84	59.0	2,950	15.0	中学 S54, H26電源休止
				80	80BMS2515	0.84	59.0	2,950	15.0	中学 S54, H26電源休止
	小 嵐 中 学 校 配 水 池	05114	175	25	25EVMS8 5.37	0.04	25.1	2,850	0.4	R1 設置
				25	25EVMS8 5.37	0.04	25.1	2,850	0.4	R1 設置
	上 の 山 第 2 配 水 池	03036	300	65	65EVM L8515	0.40	124.0	3,000	15.0	H20受
				65	65EVM L8515	0.40	124.0	3,000	15.0	H20受
	熱 海 自 然 郷 受 水 槽	03098	300	65	65EVM L8515	0.40	94.0	3,000	15.0	H20受
				65	65EVM L8515	0.40	94.0	3,000	15.0	H20受
	熱 海 自 然 郷 富 士 見 台 配 水 池	03099	45	65	65EVM L8515	0.40	124.0	3,000	15.0	H20受
				65	65EVM L8515	0.40	124.0	3,000	15.0	H20受

送 水 施 設 ポ ン プ 一 覧 表

水系	配水池名	配水池番 号	容積 m ³	口径	型 式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備 考
和田山	熱海自然郷 大島台配水池	03100	420	50	50EVML12511	0.25	123.0	3,000	11.0	H20受
				50	50EVML12511	0.25	123.0	3,000	11.0	H20受
・和田 土田 橋山	桜 町 ポ ン プ 槽	05118	80	100	100BMS2537	1.16	90.0	3,000	37.0	S62
				100	100BMS2537	1.16	90.0	3,000	37.0	S62
宮川	宮川浄水場・配水池	08123	総容量 3,388	65	KUR-655X4S-11	0.60	75.0	3,000	11.0	H8.11取替
				65	KUR-655X4S-11	0.60	75.0	3,000	11.0	H10.7取替
	みかん台ポンプ	08125	3.5	65	65BMS4511	0.34	82.0	2,940	11.0	H2.11取替
				65	65BMS4511	0.34	82.0	2,940	11.0	H2.11取替 H25.11故障修理
	網代第1配水池	08127	510	125	JU125X3-545	1.50	120.0	3,000	45.0	H10.12取替
				125	JU125X3-545	1.50	110.0	3,000	45.0	H10.11取替
	網代第2配水池 〃（増設）	08128	100	125	125BMS2530	1.83	55.0	3,000	30.0	H1増量取替
			360	125	125BMS2530	1.83	55.0	3,000	30.0	H1増量取替
	網代第3配水池	08129	550	80	80BMS4522	0.97	84.0	2,920	22.0	S63増量取替
				80	80BMS4522	0.97	84.0	2,920	22.0	S63増量取替
	網代第4配水池	08130	250	65	65BMS255.5	0.26	50.0	2,890	5.5	H7.9取替
				65	65BMS255.5	0.26	50.0	2,890	5.5	H7.9取替
	初島第1配水池	08133	120	32	32BMSP352.2A	0.13	45.0	3,000	2.2	H10.6
				32	KUR-325X3S-2.2	0.12	57.0	3,000	2.2	H8.11
	初島受水槽	08132	120	100	M100-IV-2	1.00	55.0	1,500	22.0	H12
				100	M100-IV-2	1.00	55.0	1,500	22.0	H12
中野	中野第2配水池	10138	200	65	65BMS4511	0.35	70.0	2,950	11.0	H3.7取替
				65	SB-WP	0.35	70.0	2,950	11.0	H4取替
和田木	和田木配水池(増設)	11142	400	40	40BMS555.5	0.225	72.0	2,890	5.5	S60 H21撤去
				40	40BMS555.5	0.225	72.0	2,890	5.5	S60 H21撤去
	和田木配水槽	11142	54	50	50BMS253.7	0.312	40.0	2,880	3.7	S60取替 未使用 H23撤去
				50	50BMS253.7	0.312	40.0	2,880	3.7	S60取替 未使用 H23撤去
	三愛受水槽	11144	91	50	50BMSP5511A	0.400	87.0	3,000	11.0	H12ケーブル交換 H21取替
				50	50BMSP5511A	0.400	87.0	3,000	11.0	H12ケーブル交換 H21取替
	三愛第1配水池	11145	135	50	50BMSP457.5A	0.400	60.0	3,000	7.5	H18ケーブル交換 H21取替
				50	50BMSP457.5A	0.400	60.0	3,000	7.5	H18ケーブル交換 H21取替
	三愛第2配水池	11146	135	40	40BMSP555.5A	0.250	70.0	3,000	5.5	S53,H21取替
				40	40BMSP555.5A	0.250	70.0	3,000	5.5	S53,H21取替
						22.406	—	—	536.6	

配 水 施 設 ポ ン プ ー 覧 表

水系	配 水 池 名	配水池番 号	容積 m ³	口径	型 式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備 考
泉・ 日金沢	伊豆山嶽ヶ配水場	03089	9	40	MPC-EF3CRN10-10	1.40	75.0	3,000	4.0	H29受 T式 IV
				40	MPC-EF3CRN10-10	1.40	75.0	3,000	4.0	H29受 T式 IV
				40	MPC-EF3CRN10-10	1.40	75.0	3,000	4.0	H29受 T式 IV
柿 田 川	長畑山配水池	03035	45	32	32BNBMD	0.20	27.0	3,300	1.1	H19受 T式、IV
	梅園町長畑山配水槽	03033	8	32	32BNBMD	0.20	27.0	3,300	1.1	H19受 T式、IV
				25	25MDPF35.4S	0.07	20.0	3,000	0.4	H17受 T式、H22取替
				25	25MDPF35.4S	0.07	20.0	3,000	0.4	H17受 T式
和 田 山	前の沢配水池	05111	50	65	65SB-WP	0.45	40.0	3,000	5.5	H5.8圧力タンク付
				65	65SB-WP	0.45	40.0	3,000	5.5	H5.8圧力タンク付
				32	32BNBMD 1.1C	0.30	26.0	3,000	1.1	H23取替 T式 IV
				32	32BNBMD 1.1C	0.30	26.0	3,000	1.1	H23取替 T式 IV
	熱海自然郷 玄岳台配水池	03103	165	40	40BNAMD1.5A	0.30	18.5	－	1.5	H20受 T式 IV
				40	40BNAMD1.5A	0.30	18.5	－	1.5	H20受 T式 IV
和 田 木	三愛第3配水池	11147	66	40	40BNBMD2.2A	0.60	27.0	3,000	2.2	H8 T式、H22取替
				40	40BNBMD2.2A	0.60	27.0	3,000	2.2	H8 T式、H22取替
	和田木高区配水池	11140	80	32	－	－	40.0	3,000	2.2	H13 T式
				32	－	－	40.0	3,000	2.2	H13 T式
						2.87	－	－	12.5	



来宮配水池ポンプ室

浄水施設ポンプ一覧表

水源	配水池名	配水池番号	浄水能力 m ³ /日	口径	型 式	吐出量 m ³ /m	全揚程 m	回転数	出力 Kw	備 考
泉	泉 浄 水 場	01001	2,850	100	80FSS2F611B	1.74	25.0	3,600	11.0	源水ポンプ
				100	80FSS2F611B	1.74	25.0	3,600	11.0	
				100	80FSS2G511B	1.74	25.0	3,000	11.0	逆洗ポンプ
				100	20NSP585	1.74	25.0	3,000	11.0	
				25	25RQF5.2B	0.02	10.0	1,500	0.2	浄水検水ポンプ
				50	50QWV5.75A	0.08	10.0	3,000	0.75	給泥
				50	YD1200GRP-T	0.1	7.0	3,000	0.75	上水放流
橋小 戸石・ 堰下 沢	一 里 茶 屋 浄 水 場	03049	3,130	200	200BMSE515	4.35	10.0	1,500	15.0	逆洗ポンプ
				200	200BMSE515	4.35	10.0	1,500	15.0	
				200	200BMSE515	4.35	10.0	1,500	15.0	
				200	200BMSE515	4.35	10.0	1,500	15.0	
				32	32RQG5.2C	0.03	15.0	1,500	0.40	浄水検水ポンプ
丹 那	来 宮 浄 水 場	04104	22,000	65	65BMSP255.5A	0.417	30.0	2,890	5.5	マイクロ洗浄 H23取替
宮 川	宮 川 浄 水 場	08123	7,500	350	360CEM	16	11.0	950	45.0	逆洗
				125	130SGM	2	195.0	1,450	11.0	表洗
				40	40RSM	30ℓ/m	55.0	1,450	2.2	H14廃止
				40	40RSM	25ℓ/m	55.0	1,450	2.2	H14廃止
				100	100DL57.5	1	15.0	1,450	7.5	洗浄排水移送
				80	80DL53.7	0.4	10.0	1,450	3.7	汚泥引抜
和 田 木	和 田 木 浄 水 場		800	80	100×80 FSS2F57.5B	1.4	21.0	3,000	7.5	逆洗
				80	100×80 FSS2F57.5B	1.4	21.0	3,000	7.5	逆洗
				50	TSM-251P	0.5	24.0	3,000	3.7	CIP (薬品洗浄ポンプ)
						34.127	—	—	138.0	



泉浄水場原水ポンプ



泉浄水場逆洗ポンプ

6. 減圧弁 一 覧

水系	配 水 池 名	標高 m	設置 年度	減圧弁 設置高m	1次圧(Mpa) 2次圧(Mpa)	口径	減圧弁社名	備 考 (安全弁◎)
泉	泉 第 2 配 水 池	133.5	H26	30.0	1.02 0.40	φ 50*2	ベン RD-31FN-FH	S61設置を改良 銀しゃり手前 ◎
泉 ・ 日 金 沢	泉 桜ヶ丘 配 水 池	333.4	H28	252.8	0.82 0.40	φ 50*2	ベン RD-31FN-FH	泉 桜ヶ丘分譲地内 ◎
	七 尾 第 1 配 水 池	387.2	H30	311.1	0.73 0.15	φ 75・φ 50	角田鉄工 TE-720PB	ウルシヶ窪第1配水池内 ◎
	七 尾 第 1 配 水 池 (旧ウルシヶ窪第1配水池内)	311.1	H30	239.4	0.87 0.20	φ 75・φ 50	角田鉄工 TE-720PB	ウルシヶ窪第2配水池内 R5撤去 ◎
	有 楽 第 1 配 水 池	454.1	R3	376.5	0.79 0.55	φ 50*2	角田鉄工 TE-720PB	七尾原第1配水池地内 流入系・配水系 ◎
	有 楽 第 1 配 水 池	454.1	R4	388.5	0.60 0.22	φ 50	角田鉄工 TE-720PB	旧有楽第3配水池下 交差点 ◎
	七 尾 第 1 配 水 池	387.2	R3	323.2	0.58 0.10	φ 150	角田鉄工 TE-752PB	七尾第3配水池地内 流入管水位調整一体式 ◎
	七 尾 第 4 配 水 池	263.6	R4	164.3	1.05→0.44 1.05→0.49	φ 100・φ 75	角田鉄工 TE-750PB	旧七尾第4配水池水系 末端仕切り ◎
	〃	186.8	H21	154.4		φ 100	ベン	七尾第5配水池スラブ 流入管に設置
日 金 沢	泉 高 区 第 4 配 水 池	428.7	R1	337.0	0.90 0.10	φ 75	角田鉄工 TE-720PB	H2エドラス製 φ 50*2 から変更 ◎
	〃	428.7	R1	337.0	0.9→0.3 0.3→0.1	φ 75 直列2基	角田鉄工 TE-720PB	◎
	泉 高 区 第 4 配 水 池 (上 記 減 圧 弁 2 次 側)	337.0	H30	275.6	0.78 0.15	φ 50	角田鉄工 TE-720PB	泉高区第一配水池流入管
	日 金 沢 浄 水 池	379.0	R4	322.5	0.60 0.10	φ 100	角田鉄工 TE-722PB	泉第5配水池地内 流入管水位調整一体式
柿 田 川	相 の 原 受 水 槽	386.6	H29	308.3	0.9→0.4 0.4→0.1	φ 100 直列2基	角田鉄工 TE-720PB	旧相の原第2配水池内 送水管 ◎
	〃	386.6	H29	308.3	0.9→0.4 0.4→0.1	φ 75 直列2基	角田鉄工 TE-720PB	旧相の原第2配水池内 配水管 ◎
	相 の 原 受 水 槽 (旧相の原第2配水池内)	308.3	H19	256.2	0.50 0.30	φ 50*2	ベン RD-14C-NL	相の原第3配水池地内 1 つエドラス修理品 ◎
	相 の 原 第 4 配 水 池	254.7	H26	166.7	0.10 0.30	φ 150	ベン WVR-02CN	初川PC配水池 流入電動弁室内 ◎
	初 川 P C 配 水 池	166.7	S45	58.0	1.00 不明	φ 100		錦町アド屋約70m上 故障中により仕切り
柿 田 川 ・ 一 里 茶 屋	一 里 茶 屋 受 水 槽	406.9	S61	321.0	0.88 0.25	φ 50*2	エドラス	堰下配水池下 西熱海分譲地入り40m
	堰 下 配 水 池	330.4	H27	287.6	0.42 0.075	φ 75・φ 50	角田鉄工 TE-720PB	旧西熱海減圧槽 駐車スペースピット内 ◎
	西 熱 海 配 水 池	276.5	H23	194.0	0.78 0.16	φ 50*2	ベン RD-33FW-FL	東芝来の宮荘付近 ◎
	姫の沢トンネル配水池	385.0	S61	278.0	1.12 不明	φ 50*3	エドラス	吾妻管路トンネル手前 善方面行き止り
	〃	385.0	H6	277.0	1.12 不明	φ 100*2	エドラス	吾妻管路トンネル手前 伊豆山第1配水池方面
	〃	385.0	H6	231.0		φ 100*2	エドラス	上記減圧弁2次側 約300m下
	〃	385.0	H28	325.0	0.60 0.10	φ 100	角田鉄工 TE-720PB	桃山高区配水池地内 流入電動弁ピット内
	〃	385.0	R1	257.0	1.25 0.30	φ 100	角田鉄工 TE-720PB	伊豆山PC流入弁室内

水系	配水池名	標高 m	設置 年度	減圧弁 設置高m	1次圧(Mpa) 2次圧(Mpa)	口径	減圧弁社名	備 考 (安全弁◎)
柿 田 川 ・ 一 里 茶 屋	土 沢 第 1 配 水 池	337.1	H27	279.8	0.57 0.20	φ 100	ベン RD-33FN-FL	土沢第二配水池地内 流入1次側ピット内 ◎
	土 沢 山 配 水 池	337.6	S63	236.0	1.00 0.20	φ 65・ φ 50	エドラス	バサニア付近 旧村上組方面給水減圧
	桃 山 高 区 配 水 池	320.4	S56	255.0	0.70 0.70	φ 50*2	エドラス	故障中 桃山第一配水池 MOA方面約120m右
	〃	320.4	H10	219.0	1.10 0.20	φ 150	クリモト	MOA～古美道間
	〃	320.4	H30	239.6	0.81 0.15	φ 150	角田鉄工 TE-752PB	桃山第1配水池地内 流入管水位調整一体式 ◎
	桃 山 第 1 配 水 池	239.6	H29	184.9	0.50 0.10	φ 100	角田鉄工 TE-720PB	桃山第2配水池手前 流入管に設置
	桃 山 第 2 配 水 池	184.9	H12	71.0	0.60 0.25	φ 50	エドラス	志ほみや付近
	〃	184.9	H25	103.0	0.85 0.35	φ 150・ φ 100	ベン WVR-02N	桃山教員住宅付近 東山地区給水 ◎
	〃	184.9	H26	115.8	0.69 0.20	φ 50*2	ベン RD-31FN-FL	紀州鉄道付近 倉沢地区給水 ◎
	伊 豆 山 減 圧 槽	186.8	H6	119.0	0.70 0.10	φ 100*2	エドラス	伊豆山神社階段途中
和 田 山	曾我山トンネル配水池	141.1		50.9		φ 50*2	ベン	曾我浦トンネルより熱海方 向に275m海側石積:R3撤 去
	曾 我 山 第 1 配 水 池	219.1	S59	132.0	0.88 0.35	φ 50	エドラス	桜ヶ丘町石田組事務所付 近
	〃	219.1	R1	113.0	1.06 0.25	φ 75*2	角田鉄工 TE-720PB	野村生コン上 ◎
	熱海自然郷富士見台配水池	389.4	H18	361.0	0.30 0.10	φ 50*2	ベン RD-14PN	真光方面給水 ◎
	熱海自然郷大島台配水池	495.9	H18	427.0	0.72 0.25	φ 100*2	ベン RD-14PN	コマツ管理事務所付近 熱海台付近給水 ◎
	〃	495.9	H18	385.0	0.70 0.27	φ 75*2	ベン RD-14PN	富士見台配水池下付近 五重塔方面給水 ◎
	〃	495.9	H18	421.5	0.78 0.25	φ 100*2	ベン RD-14PN	大島台配水池南側配水管 系 ◎
	〃	495.9	H19	276.0	0.67 不明	φ 75*2	ベン RD-14PN	ピラ自然郷南側付近 ◎
	〃	495.9	H19	331.0	0.50 0.11	φ 100*2	ベン RD-14PN	大島台配水池東南方向 道路部でない所に設置 ◎
	〃	495.9	H18	428.5	0.70 0.33	φ 50*2	ベン RD-14PN	
	〃	495.9	H19	395.0	0.50 0.20	φ 75*2	ベン RD-14PN	
	〃	495.9	H19	352.0	0.60 0.28	φ 75*2	ベン RD-14CN	◎
	〃	495.9	H12	411.5	0.90 0.29	φ 75	ベン RD-14CN	◎
	〃	495.9	H18	387.8		φ 75	ベン RD-14CN	初島台配水池敷地内 流入管に設置 ◎
	熱海自然郷熱海台配水池	411.5	H18	339.0	0.74 0.12	φ 75*2	ベン RD-14PN	市営グラウンド入口下 交差点付近 ◎
	〃	411.5	H18	300.0	0.76 0.31	φ 75*2	ベン RD-14PN	◎

水系	配 水 池 名	標高 m	設置 年度	減圧弁 設置高m	1次圧(Mpa) 2次圧(Mpa)	口径	減圧弁社名	備 考 (安全弁◎)
和田山	熱海自然郷熱海台配水池	411.5	H18	336.0	0.75 0.40	φ 75*2	ベン RD-14PN	市営グランド東側道路 スコアボード付近 ◎
	〃	411.5	H14	251.5	0.82 不明	φ 100	ベン RD-14CN	◎
	熱海自然郷初島台配水池	387.8	H20	308.0	0.82 0.17	φ 75*2	ベン RD-14CN	ビラ自然郷前面道路 東側付近 ◎
	〃	387.8	H11	239.0	0.80 不明	φ 100	ベン RD-14CN	
	熱海自然郷玄岳台配水池	581.3	H18	518.5	0.62 0.06	φ 100*2	ベン RD-14PN	◎
	〃	581.3	H18	500.0	0.60 0.28	φ 75*2	ベン RD-14PN	大島台配水池より 西側130m付近 ◎
	〃	581.3	H18	492.0	0.69 0.19	φ 75*2	ベン RD-14PN	減圧弁先行きとまり ◎
	〃	581.3	H18	516.5	0.62 0.02	φ 75*2	ベン RD-14PN	階段手前 ◎
	〃	581.3	H18	488.0	0.68 0.23	φ 75	ベン RD-14CN	減圧弁先行きとまり ◎
・和 土田 橋山	土 橋 配 水 池	167.0	H29	82.5	0.85 0.40	φ 75	角田鉄工 TE-720PB	伊東線ガード付近小嵐配水 池へ送水管に設置
上 多 賀	上 多 賀 高 区 配 水 池	177.4	R1	92.0	0.88 0.50	φ 75・φ 50	角田鉄工 TE-720PB	上多賀PC配水池奥 伊東線トンネル上付近 ◎
宮 川	網 代 第 3 配 水 池	182.4	H28	70.0	1.15 0.95	φ 75・φ 50	角田鉄工 TE-720PB	国道135号線から 網代山方面入口付近 ◎
	網 代 第 4 配 水 池	253.3	H25	170.0	0.78 0.23	φ 75*2	ベン RD-33FW-FL	オレンジタウンより寄付 ◎
和 田 木	和 田 木 高 区 配 水 池	130.1	H12	35.0	0.95 0.24	φ 50*2	エドラス	
	〃	130.1	H12	42.0	0.85 0.22	φ 50*2	エドラス	



旧相の原第二配水池内 減圧弁

7-1. 滅菌装置 一 覧

水源	配 水 池 名	配水池番 号	容 積 m ³	型 式	製作所	日平均 使用量 (L)	次亜塩素 タンク容量 (L)	設置年	備 考
泉	泉 浄 水 場	01001	浄水能力 2850m ³ /日	DDA7.5-16	グルンド フォス	10.0	200L×2	2016	後次亜用注入ポンプ:2台
				DDA7.5-16					
				DDA7.5-16					逆洗次亜用注入ポンプ:2 台
				DDA7.5-16					
日 金 沢	日 金 沢 浄 水 場		浄水能力 1700m ³ /日	DDA7.5-16	グルンド フォス	5.0	100L×2	2022	泉高区第4配水池より移設
				DDA7.5-16					
	七 尾 第 1 配 水 池	01010	300	NK10CSH	西原	3.0	50L×1		希釈率 次亜塩素:水=1:1
橋小 戸石 ・ケ 堰下 沢	一 里 茶 屋 浄 水 場	03049	浄水能力 3130m ³ /日	DDA7.5-16	グルンド フォス	10.0	100L×2	2022	
				DDA7.5-16					
				DDA7.5-16					
				DDA7.5-16					
丹 那	来 宮 浄 水 場	04104	浄水能力 22000m ³ /日	DDA7.5-16	グルンド フォス	30.0	1000L×2	2017	来宮配水池:1系
				DDA7.5-16					
				DDA7.5-16					来宮ポンプ場:2系
				DDA7.5-16					
和 田 山 ・ 土 橋	和 田 山 水 源 (中 村 建 設)			NK10CIH	西原	1.5	50L×1		希釈率 次亜塩素:水=1:8
	和 田 山 第 1 配 水 池	05109	260	DME2-18	グルンド フォス	6.0	100L×1		
	和 田 山 第 3 配 水 池	05113	260	MGI-25N	共立 機工	6.0	50L×2	2024	
	土 橋 配 水 池	05117	850	GLX-25-A-7-X	タクミナ	1.0	100L×1	2017	
上 多 賀	上 多 賀 高 区 配 水 池	07122	200	DDE6-10B	グルンド フォス	3.0	100L×1		
宮 川	宮 川 浄 水 場	08123	浄水能力 7500m ³ /日				1000L×1		No1貯留槽:持出し専用
				NK50CIH	西原	16.0	1500L×1		No2貯留槽:滅菌専用
下 多 賀	下 多 賀 高 区 第 1 配 水 池	09136	120	DDE6-10	グルンド フォス	3.5	80L×1		希釈率 次亜塩素:水=1:4
中 野	中 野 第 2 配 水 池	10138	200	DME2-18	グルンド フォス	1.0	50L×1		
和 田 木	和 田 木 浄 水 場		浄水能力 800m ³ /日	DDA7.5-16	グルンド フォス	6.0	50L×2	2024	
	和 田 木 高 区 配 水 池	11140	80	NK10 VL-CSH	西原	2.5	50L×1		

7-2. PAC装置 一 覧

水源	配水池名	配水池番号	容積 m ³	型 式	製作所	日平均 使用量 (L)	PAC タンク容量 (L)	設置年	備 考
橋小 戸石 ヶ堰 下沢	一里茶屋浄水場	03049	浄水能力 3130m ³ /日	DDA7.5-16AR- PVC/V/C-F-31U2U2JG	グルンド フオス	10.0	500L×1	2022	
				DDA7.5-16AR- PVC/V/C-F-31U2U2JG					
				DDA7.5-16AR- PVC/V/C-F-31U2U2JG					
宮 川	宮 川 浄 水 場	08123	浄水能力 7500m ³ /日	PZD300	タクミナ	17.4	600L×1		1F小出し槽
				PZD300			1500L×2		2F貯留槽



一里茶屋浄水場



一里茶屋浄水場



日金沢浄水場

第3章 水 質 検 査

1. 水 質 検 査 成 績 表

検 査 の 種 類	水 系	泉	日金沢	柿田川・一里茶屋	柿田川
	採 取 月 日	06.7.2	06.7.2	06.7.2	06.7.2
	当 日 天 候	曇	曇	曇	曇
	給 水 ・ 原 水	表流水	湧 水	水道水	水道水
気 温	℃	29.8	24.8	29.0	32.0
水 温	℃	21.5	19.3	19.5	22.5
採 取 時 残 留 塩 素	mg/ℓ	0.30	0.30	0.20	0.20
一 般 細 菌	100個/ml以下	0	0	0	0
大 腸 菌	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出
カドミウム及びその化合物	0.003mg/ℓ以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
水 銀 及 び そ の 化 合 物	0.0005mg/ℓ以下	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満
セレン及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
鉛 及 び そ の 化 合 物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ヒ素及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
六 価 ク ロ ロ 化 合 物	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
亜硝酸態窒素	0.04mg/ℓ以下	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満
シアン化物及び塩化シアン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/ℓ以下	0.55	0.97	0.85	0.80
フッ素及びその化合物	0.8mg/ℓ以下	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満
ホウ素及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
四 塩 化 炭 素	0.002mg/ℓ以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
1,4- ジ オ キ サ ン	0.05mg/ℓ以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.02mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
トリクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ベ ン ゼ ン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
塩 素 酸	0.6mg/ℓ以下	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満
ク ロ ロ 酢 酸	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
ク ロ ロ ホ ル ム	0.06mg/ℓ以下	0.004	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
シブロモクロロメタン	0.1mg/ℓ以下	0.001	0.001 未満	0.001	0.002
臭 素 酸	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
総 ト リ ハ ロ メ タ ン	0.1mg/ℓ以下	0.008	0.001 未満	0.001	0.004
ト リ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
ブ ロ モ ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.03mg/ℓ以下	0.003	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ブ ロ モ ホ ル ム	0.09mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.002
ホ ル ム アル デ ヒ ド	0.08mg/ℓ以下	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満
亜鉛及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.002	0.005	0.009	0.001
アルミニウム及びその化合物	0.2mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.02	0.03
鉄 及 び そ の 化 合 物	0.3mg/ℓ以下	0.03 未満	0.03 未満	0.03 未満	0.03 未満
銅 及 び そ の 化 合 物	1.0mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満
ナトリウム及びその化合物	200mg/ℓ以下	4.4	4.4	6.3	8.5
マンガン及びその化合物	0.05mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
塩 化 物 イ オ ン	200mg/ℓ以下	3.6	3.9	5.5	6.0
カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/ℓ以下	32.0	31.0	46.0	48.0
蒸 発 残 留 物	500mg/ℓ以下	84	83	111	129
陰イオン界面活性剤	0.2mg/ℓ以下	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
ジ エ オ ス ミ ン	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
非イオン界面活性剤	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
フ ェ ノ ール 類	0.005mg/ℓ以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	3mg/ℓ以下	0.3	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満
pH 値	5.8以上8.6以下	7.8	7.8	7.7	7.8
味	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
臭 気	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
色 度	5度以下	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
濁 度	2度以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

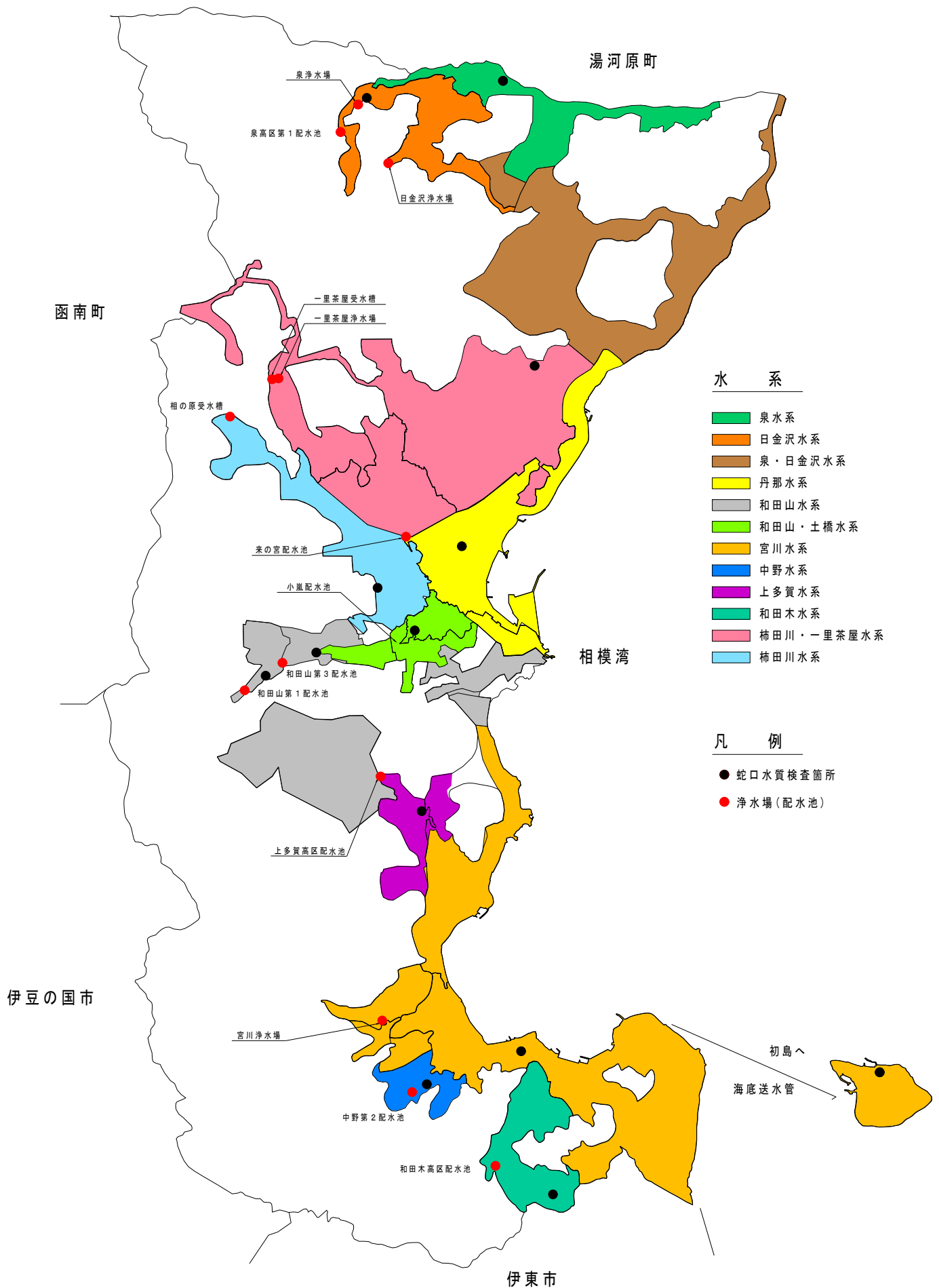
水 質 検 査 成 績 表

検 査 の 種 類	水 系	丹 那	和 田 山	和田山(1号水源)	上多賀	宮 川
	採 取 月 日	06.7.2	06.7.2	06.7.2	06.8.6	06.8.6
	当 日 天 候	曇	晴	晴	曇	曇
	給 水 ・ 原 水	湧 水	湧 水	井戸水	湧 水	表流水
気 温	℃	28.2	27.2	27.1	29.8	30.5
水 温	℃	20.5	16.8	17.5	21.2	22.2
採 取 時 残 留 塩 素	mg/ℓ	0.30	0.20	0.20	0.20	0.20
一 般 細 菌	100個/ml以下	0	0	0	0	0
大 腸 菌	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
カドミウム及びその化合物	0.003mg/ℓ以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
水 銀 及 び そ の 化 合 物	0.0005mg/ℓ以下	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満
セレン及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
鉛 及 び そ の 化 合 物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ヒ素及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
六 価 ク ロ ム 化 合 物	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
亜硝酸態窒素	0.04mg/ℓ以下	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満
シアン化物及び塩化シアン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/ℓ以下	0.74	1.16	1.72	1.13	0.60
フッ素及びその化合物	0.8mg/ℓ以下	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満
ホウ素及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
四 塩 化 炭 素	0.002mg/ℓ以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
1,4- ジ オ キ サ ン	0.05mg/ℓ以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.02mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
トリクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ペ ン ゼ ン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
塩 素 酸	0.6mg/ℓ以下	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満
ク ロ ロ 酢 酸	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
ク ロ ロ ホ ル ム	0.06mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
シブロモクロロメタン	0.1mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.004 未満
臭 素 酸	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
総 ト リ ハ ロ メ タ ン	0.1mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.009 未満
ト リ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
ブ ロ モ ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.03mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.003 未満
ブ ロ モ ホ ル ム	0.09mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ホ ル ム アル デ ヒ ド	0.08mg/ℓ以下	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満
亜鉛及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.007	0.001 未満	0.002	0.016	0.002
アルミニウム及びその化合物	0.2mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.04 未満
鉄 及 び そ の 化 合 物	0.3mg/ℓ以下	0.03 未満	0.03 未満	0.03 未満	0.06 未満	0.03 未満
銅 及 び そ の 化 合 物	1.0mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満
ナトリウム及びその化合物	200mg/ℓ以下	5.5	4.4	7.8	6.3	4.6
マンガン及びその化合物	0.05mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.002 未満	0.001 未満
塩 化 物 イ オ ン	200mg/ℓ以下	3.9	4.0	12.7	7.2	4.8
カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/ℓ以下	39.0	37.0	57.0	67.0	36.0
蒸 発 残 留 物	500mg/ℓ以下	111	105	151	166	116
陰イオン界面活性剤	0.2mg/ℓ以下	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
ジ エ オ ス ミ ン	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
非イオン界面活性剤	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
フ ェ ノ ール 類	0.005mg/ℓ以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	3mg/ℓ以下	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満
pH 値	5.8以上8.6以下	8.0	7.8	7.8	7.7	7.8
味	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
臭 気	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
色 度	5度以下	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	1.0 未満	0.5 未満
濁 度	2度以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.2 未満	0.1 未満

水 質 検 査 成 績 表

検 査 の 種 類	水 系	中野	和田木	和田山・土橋	宮川(初島)
	採 取 月 日	06.8.6	06.8.6	06.7.2	06.8.6
	当 日 天 候	曇	曇	曇	晴
	給 水 ・ 原 水	井戸水	湧 水	浄 水	水道水
気 温	℃	30.2	31.8	32.3	31.0
水 温	℃	27.2	20.2	19.9	24.5
採 取 時 残 留 塩 素	mg/ℓ	0.20	0.20	0.20	0.24
一 般 細 菌	100個/㎖以下	0	0	0	0
大 腸 菌	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出
カドミウム及びその化合物	0.003mg/ℓ以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
水 銀 及 び そ の 化 合 物	0.0005mg/ℓ以下	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満	0.00005 未満
セレン及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
鉛 及 び そ の 化 合 物	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ヒ素及びその化合物	0.01mg/ℓ以下	0.001	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
六 価 ク ロ ム 化 合 物	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
亜硝酸態窒素	0.04mg/ℓ以下	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満
シアン化物及び塩化シアン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	10mg/ℓ以下	0.62	0.85	1.63	0.60
フッ素及びその化合物	0.8mg/ℓ以下	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満	0.08 未満
ホウ素及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
四 塩 化 炭 素	0.002mg/ℓ以下	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満
1,4- ジ オ キ サ ン	0.05mg/ℓ以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.02mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
トリクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ベ ン ゼ ン	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
塩 素 酸	0.6mg/ℓ以下	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満	0.06 未満
ク ロ ロ 酢 酸	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
ク ロ ロ ホ ル ム	0.06mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
ジ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
シブロモクロロメタン	0.1mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001	0.001	0.004
臭 素 酸	0.01mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
総 ト リ ハ ロ メ タ ン	0.1mg/ℓ以下	0.002	0.003	0.001	0.008
ト リ ク ロ ロ 酢 酸	0.03mg/ℓ以下	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
ブ ロ モ ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.03mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.002
ブ ロ モ ホ ル ム	0.09mg/ℓ以下	0.002	0.002	0.001	0.002
ホ ル ム ア ル デ ヒ ド	0.08mg/ℓ以下	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満	0.008 未満
亜鉛及びその化合物	1.0mg/ℓ以下	0.003	0.003	0.003	0.020
アルミニウム及びその化合物	0.2mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.02 未満	0.04
鉄 及 び そ の 化 合 物	0.3mg/ℓ以下	0.03 未満	0.03 未満	0.03 未満	0.03 未満
銅 及 び そ の 化 合 物	1.0mg/ℓ以下	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満
ナトリウム及びその化合物	200mg/ℓ以下	4.8	4.8	7.7	4.6
マンガン及びその化合物	0.05mg/ℓ以下	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満
塩 化 物 イ オ ン	200mg/ℓ以下	4.7	6.3	11.9	4.8
カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/ℓ以下	32.0	42.0	56.0	37.0
蒸 発 残 留 物	500mg/ℓ以下	115	105	152	102
陰 イ オン 界 面 活 性 剤	0.2mg/ℓ以下	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
ジ エ オ ス ミ ン	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
2-メチルイソボルネオール	0.00001mg/ℓ以下	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満	0.000001 未満
非 イ オン 界 面 活 性 剤	0.02mg/ℓ以下	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満
フ ェ ノ ール 類	0.005mg/ℓ以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	3mg/ℓ以下	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満	0.3 未満
pH 値	5.8以上8.6以下	8.0	8.6	7.8	7.8
味	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
臭 気	異常でないこと	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし
色 度	5度以下	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
濁 度	2度以下	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

配水系統と検査地点



第4章 水 道 料 金

1. 熱海市の水道料金

【水道料金の変遷(専用栓13mmの場合)】 初島地区以外

適用年月	基本料金		超過料金1		超過料金2		超過料金3		損料	平均 改定率	改定年月日
	水量	料金	水量	料金	水量	料金	水量	料金			
昭和23年	10	40		5					10		昭和23年 6月25日
26年 11月	10	50		6					10		昭和26年11月 1日
33年 11月	10	85	～20	8	21以上	9			20		昭和33年 6月24日
39年 5月	8	105		13					20		昭和39年 4月27日
46年 4月	8	160		24					30		昭和46年 3月25日
50年 11月	10	380	～30	43	～100	48	101～	54		100.7%	昭和50年10月13日
51年 4月	10	480	～30	53	～100	62	101～	71		27.7%	昭和50年10月13日
52年 4月	10	630	～30	68	～100	78	101～	88		24.9%	昭和50年10月13日
53年 4月	10	670	～30	73	～100	85	101～	96		8.6%	昭和53年 2月15日
54年 4月	10	750	～30	82	～100	96	101～	108		12.5%	昭和53年 2月15日
55年 4月	10	840	～30	92	～100	108	101～	122		12.7%	昭和53年 2月15日
56年 6月	10	950	～30	104	～100	123	101～	139		13.6%	昭和56年 3月23日
平成 元年 10月	消費税 3%を転嫁する。										平成元年 7月 4日
4年 4月	専用栓のみ 100分の95を乗じ、消費税 3%を転嫁する。										平成 4年 3月23日
9年 7月	一 律 100分の90を乗じ、消費税 5%を転嫁する。										平成 9年 3月25日
12年 7月	一 律 100分の95を乗じ、消費税 5%を転嫁する。										平成12年 3月24日
14年 7月	一 律 100分の93を乗じ、消費税 5%を転嫁する。										平成14年 3月26日
15年 7月	一 律 100分の98を乗じ、消費税 5%を転嫁する。										平成14年 3月26日
17年 4月	消費税 5%の総額表示料金表に改定する。										平成16年12月21日
17年 7月	特別減額措置を終了する。										平成17年 4月 1日
19年 7月	10	1,057.35	～30	115.75	～100	136.9	101～	154.7		6.0%	平成19年 3月22日
21年 4月	10	1,152	～30	126	～100	149	101～	168		9.0%	平成20年12月18日
23年 7月	10	1,174	～30	128	～100	151	101～	171		4.0%	平成23年 3月16日
	緊急経済対策として2%の軽減を行う。										
24年 4月	10	1,198	～30	130	～100	154	101～	174			
	緊急経済対策終了に伴い、2%の軽減を終了する。										
26年 7月	10	1,232	～30	133	～100	158	101～	179			平成26年 3月14日
	消費税 8%の総額表示料金表に改定する。										
令和 2年 1月	10	1,255	～30	136	～100	161	101～	182			平成31年 3月15日
	消費税 10%の総額表示料金表に改定する。										
6年 4月	10	1,380	～30	149	～100	177	101～	200		10.0%	令和5年9月27日

【水道料金の変遷(一般用及び特別給水)】 初島地区

適 用 年 月	基 本 料 金 (1ヶ月)		超過使用料 (1 m ³ につ き)	改 定 年 月 日
	基本水量 (m ³)	金額 (円)		
昭 和 50年 11月	10	580.00	78.00	昭和50年10月15日
51年 4月	10	680.00	98.00	昭和50年10月15日
53年 4月	10	890.00	129.00	昭和53年 2月16日
54年 4月	10	1,010.00	146.00	昭和53年 2月16日
55年 4月	10	1,140.00	164.00	昭和53年 2月16日
56年 6月	10	1,290.00	187.00	昭和56年 3月23日
平 成 元年 10月	消費税 3%を転嫁する。			平成元年 7月 5日
4年 4月	専用栓のみ 100分の95を乗じ、消費税3%を転嫁する。			平成 4年 3月23日
9年 7月	一律 100分の90を乗じ、消費税5%を転嫁する。			平成 9年 3月26日
12年 7月	一律 100分の95を乗じ、消費税5%を転嫁する。			平成12年 3月24日
14年 7月	一律 100分の93を乗じ、消費税5%を転嫁する。			平成14年 3月26日
15年 7月	一律 100分の98を乗じ、消費税5%を転嫁する。			平成14年 3月26日
17年 4月	10	1,354.50	196.35	平成16年12月21日
17年 7月	特別減額措置を終了する。			平成17年 4月 1日
26年 7月	10	1,393.00	201.00	平成26年 3月14日
	消費税 8%の総額表示料金表に改定する。			
令和 2年 1月	10	1,419.00	205.00	平成31年 3月15日
6年 4月	初島地区以外と統合し、同一料金とする。			令 和 5 年 9 月 27 日



島内の町並み



海岸の様子

【水道料金表】

(1) 専用栓給水料

ア 一般用

基本料金			超過料金(1m ³ につき)		
口径	基本水量	金額	段階区分		
13mm	10m ³ 以下	1,380円	使用水量が10m ³ を超え 30m ³ まで 149円	使用水量が30m ³ を超え 100m ³ まで 177円	使用水量が100m ³ を超えるもの 200円
20mm	20m ³ 以下	2,878円	使用水量が20m ³ を超え 30m ³ まで 149円		
25mm	30m ³ 以下	4,376円	使用水量が30m ³ を超え100m ³ まで 177円		
40mm	50m ³ 以下	7,926円	使用水量が50m ³ を超え100m ³ まで 177円		
50mm	100m ³ 以下	16,799円	使用水量が100m ³ を超えるもの 200円		
75mm	250m ³ 以下	46,876円	使用水量が250m ³ を超えるもの 200円		
100mm	500m ³ 以下	97,005円	使用水量が500m ³ を超えるもの 200円		

イ 共同浴場用

基本料金			超過料金(1m ³ につき)	
口径	基本水量	金額	段階区分	金額
13mm	10m ³ 以下	291円	使用水量が10m ³ を超えるもの	27円
20mm	20m ³ 以下	568円	使用水量が20m ³ を超えるもの	
25mm	30m ³ 以下	844円	使用水量が30m ³ を超えるもの	
40mm	50m ³ 以下	1,397円	使用水量が50m ³ を超えるもの	

(2) 特別栓給水料(工事用その他のもの)

基本料金			超過料金(1m ³ につき)	
口径	基本水量	金額	段階区分	金額
13mm	15m ³ 以下	5,669円	使用水量が15m ³ を超えるもの	376円
20mm	25m ³ 以下	9,438円	使用水量が25m ³ を超えるもの	
25mm	30m ³ 以下	11,322円	使用水量が30m ³ を超えるもの	
40mm	50m ³ 以下	18,858円	使用水量が50m ³ を超えるもの	

(3) 消火栓給水料

消火のため使用した給水料金は、徴収しないものとし、消防演習その他臨時に使用するときは、1m³につき314円で算出した額をその都度使用者から徴収する。ただし、市長において特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

第5章 水道事業統計

1. 事業の推移状況

項目 年度	行政区域内		現在給水		普及率 (%)	年間 配水量 A (千m ³)	年間 有収水量 B (千m ³)
	世帯数 (世帯)	人口 (人)	栓数 (栓)	人口 (人)			
平成5年度	21,043	46,375	18,871	46,089	99.4	19,987.42	14,692.71
6年度	21,116	46,059	18,862	45,725	99.3	20,143.31	14,967.65
7年度	21,128	45,629	18,891	45,268	99.2	19,683.50	14,709.60
8年度	21,257	45,203	18,896	44,806	99.1	18,726.52	14,157.25
9年度	21,203	44,747	18,915	44,364	99.1	18,961.96	14,392.12
10年度	21,130	44,128	18,801	43,755	99.2	18,420.14	13,842.19
11年度	21,122	43,624	18,728	43,289	99.2	18,018.33	13,472.73
12年度	21,022	43,184	18,778	42,852	99.2	17,292.87	13,188.48
13年度	21,030	42,740	18,643	42,201	98.7	16,908.92	12,707.03
14年度	21,056	42,582	18,744	42,101	98.9	16,647.27	12,546.49
15年度	21,150	42,289	18,653	41,823	98.9	15,741.84	11,982.69
16年度	21,150	41,904	18,609	41,441	98.9	15,818.54	12,049.45
17年度	21,207	41,720	18,584	41,241	98.9	15,528.09	11,778.25
18年度	21,371	41,508	18,643	40,999	98.8	15,325.63	11,501.61
19年度	21,443	41,101	18,651	40,596	98.8	15,207.60	11,276.47
20年度	21,456	40,592	19,514	40,383	99.5	14,657.96	10,880.56
21年度	21,420	40,281	19,535	40,054	99.4	14,498.73	10,584.86
22年度	21,322	39,828	19,464	39,610	99.5	14,311.94	10,459.72
23年度	21,357	39,498	19,579	39,274	99.4	13,244.32	9,683.78
24年度	21,469	39,287	19,671	39,063	99.4	13,696.03	9,609.09
25年度	21,358	38,808	19,578	38,608	99.5	13,096.93	9,408.82
26年度	21,235	38,284	19,389	38,080	99.5	12,597.57	9,317.37
27年度	21,300	37,927	19,305	37,729	99.5	12,314.10	9,334.73
28年度	21,416	37,612	19,231	37,440	99.5	11,859.77	9,300.49
29年度	21,446	37,225	19,385	37,062	99.6	11,652.76	9,387.88
30年度	21,496	36,848	19,284	36,693	99.6	11,553.59	9,313.92
令和元(31)年度	21,535	36,437	19,159	36,285	99.6	10,916.89	9,136.29
2年度	21,399	35,758	19,144	35,718	99.9	9,717.17	8,152.71
3年度	21,106	35,009	18,947	34,970	99.9	9,584.16	8,027.06
4年度	20,927	34,301	18,854	34,298	99.9	10,013.64	8,424.00
5年度	20,776	33,603	18,724	33,600	99.9	9,997.17	8,545.55
6年度	20,699	33,000	18,594	32,997	99.9	10,053.02	8,502.79

有 収 率	配 水 量		1 人 1 日		負 荷 率 ※1	施 設 利 用 率 ※2	最 大 稼 働 率 ※3	総職員数
			最 大	平 均				
	1 日 最大	1 日 平均	配 水 量	給 水 量				
73.5	75,775	54,760	1,644	873	72.3	45.6	63.1	51
74.3	80,490	55,187	1,760	897	68.6	46.0	67.1	51
74.7	79,116	53,780	1,748	888	68.0	44.8	65.9	54
75.6	75,754	51,306	1,691	866	67.7	42.8	63.1	55
75.9	78,334	51,951	1,766	889	66.3	43.3	65.3	48
75.1	76,778	50,466	1,755	867	65.7	42.1	64.0	49
74.8	72,366	49,230	1,672	850	68.0	41.0	60.3	49
76.3	72,801	47,378	1,699	843	65.1	39.5	60.7	46
75.1	69,503	46,326	1,647	825	66.7	38.6	57.9	45
75.4	69,589	45,609	1,653	816	65.5	38.0	58.0	40
76.1	63,107	43,011	1,509	783	68.2	35.8	52.6	39
76.2	62,591	43,339	1,510	797	69.2	36.1	52.2	38
75.9	55,595	42,543	1,348	782	76.5	35.5	46.3	35
75.0	56,609	41,988	1,381	769	74.2	35.0	47.2	35
74.2	51,268	41,551	1,263	759	81.0	34.6	42.7	29
74.2	50,615	40,159	1,253	738	79.3	33.5	42.2	26
73.0	52,119	39,723	1,301	724	76.2	64.1	84.1	26
73.1	52,482	39,211	1,325	723	74.7	63.2	84.6	23
73.1	53,125	36,187	1,353	674	68.1	58.4	85.7	21
70.2	51,705	37,523	1,324	674	72.6	60.5	83.4	19
71.8	48,521	35,882	1,257	668	74.0	57.9	78.3	20
74.0	48,705	34,514	1,279	670	70.9	55.7	78.6	20
75.8	43,978	33,645	1,166	676	76.5	54.3	70.9	20
78.4	40,584	32,493	1,084	681	80.1	68.6	85.6	18
80.6	39,466	31,925	1,065	694	80.9	67.4	83.3	19
80.6	39,237	31,654	1,069	695	80.7	66.8	82.8	19
83.7	41,190	29,828	1,135	688	72.4	68.3	94.3	17
83.9	36,277	26,622	1,016	625	73.4	60.9	83.0	19
83.8	32,383	26,258	926	629	81.1	60.1	74.1	20
84.1	34,929	27,435	1,018	673	78.5	62.8	79.9	20
85.5	38,333	27,315	1,141	695	71.3	62.5	87.7	20
84.6	37,793	27,543	1,145	706	72.9	63.0	86.5	18

※1 負荷率(%) 水道事業の施設効率を判断する指標であり、数値が大きいほど効率的。

※2 施設利用率(%) 水道施設の経済性を総括的に判断する指標であり、数値が大きいほど効率的。

※3 最大稼働率(%) 1日配水能力に対する1日最大給水量の割合を示す。

2. 料金の納付状況 (当年度分)

納 付 方 法		件 数	割 合	収 入 済 額
口 座 振 替		152,458件	69.7%	1,317,618,946円
納付書	金 融 機 関	19,760件	9.0%	383,471,917円
	ゆうちょ銀行	5,699件	2.6%	71,208,172円
	コ ン ビ ニ	40,793件	18.7%	152,540,403円
合 計		218,710件	100%	1,924,839,438円

※ 調定額1,953,795,050円に対する収納率は98.5%です。



品質認証センターPRポスター



第66回 水道週間ポスター

3. 月別使用量

区分 月別	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	件数(件)	使用量(㎡)	件数(件)	使用量(㎡)	件数(件)	使用量(㎡)	件数(件)	使用量(㎡)	件数(件)	使用量(㎡)
4月	19,286	690,285	19,113	603,029	18,960	642,560	18,826	661,476	18,704	667,203
5月	19,276	698,249	19,122	633,400	18,953	666,675	18,813	677,916	18,690	684,387
6月	19,270	587,079	19,142	654,145	18,962	676,128	18,819	674,082	18,702	675,595
7月	19,259	582,855	19,031	647,001	18,935	671,063	18,825	676,075	18,685	673,728
8月	19,218	656,013	19,021	666,614	18,915	714,706	18,800	718,833	18,668	709,135
9月	19,195	696,736	18,818	682,370	18,909	743,504	18,778	754,775	18,659	752,486
10月	19,208	766,226	18,844	698,081	18,920	774,888	18,791	797,390	18,669	781,638
11月	19,170	740,369	18,972	688,503	18,921	749,213	18,767	767,136	18,643	743,716
12月	19,167	702,130	18,976	670,839	18,908	692,989	18,758	696,598	18,618	692,700
1月	19,153	710,206	18,956	689,784	18,882	704,361	18,759	711,872	18,617	709,383
2月	19,166	683,973	18,960	717,634	18,874	706,595	18,744	721,828	18,599	720,518
3月	19,144	638,585	18,947	675,664	18,854	681,320	18,710	687,569	18,580	692,300
合計	230,512	8,152,706	227,902	8,027,064	226,993	8,424,002	225,390	8,545,550	223,834	8,502,789
前年比較	99.90%	89.23%	98.87%	98.46%	99.60%	104.94%	99.29%	101.44%	99.31%	99.50%

市内の小学生による社会科見学の様子



【来宮浄水場】



【宮川浄水場】

4. 種別、件数、有収水量、料金（税抜）

区 分 用 途 別	令和2年度			令和3年度		
	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)
一 般	18,882	6,607,556	1,090,330,871	18,692	6,458,800	1,159,083,746
共 同 浴 場	4	8,877	187,754	4	7,891	180,158
マ ン シ ョ ン	127	1,392,936	304,469,852	126	1,393,903	332,179,076
特 別 栓	8	95	127,546	1	0	112,284
初 島 簡 水	123	143,242	25,885,213	124	166,470	31,219,442
計	19,144	8,152,706	1,421,001,236	18,947	8,027,064	1,522,774,706

区 分 地 区 別	令和2年度			令和3年度		
	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)
熱 海 地 区	9,793	5,098,420	892,269,524	9,771	5,035,549	954,065,500
南 熱 海 地 区	6,412	1,657,588	278,183,540	6,414	1,609,563	327,976,287
伊 豆 山 地 区	1,637	847,905	150,829,722	1,480	824,096	131,435,325
泉 地 区	1,179	405,551	73,833,237	1,158	391,386	78,078,152
初 島 簡 水	123	143,242	25,885,213	124	166,470	31,219,442
計	19,144	8,152,706	1,421,001,236	18,947	8,027,064	1,522,774,706

区 分 業 種 別	令和2年度			令和3年度		
	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)
ホ テ ル ・ 旅 館	395	1,975,908	311,766,694	389	1,989,758	330,694,842
営 業 ・ 商 店	1,751	1,141,127	179,717,291	1,737	1,130,607	192,489,746
共 同 浴 場	4	8,877	187,754	4	7,891	180,158
特 別 栓	8	95	127,546	1	0	112,284
官 公 庁	183	261,852	43,291,108	182	256,018	46,467,570
マ ン シ ョ ン	127	1,392,936	304,469,852	126	1,393,903	332,179,076
一 般 家 庭	16,553	3,228,669	555,555,778	16,384	3,082,417	589,431,588
初 島 簡 水	123	143,242	25,885,213	124	166,470	31,219,442
計	19,144	8,152,706	1,421,001,236	18,947	8,027,064	1,522,774,706

区 分 口 径 別	令和2年度			令和3年度		
	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m ³)	料 金 (円)
13 mm	5,921	913,746	131,045,189	5,755	853,352	135,150,999
20 mm	9,955	1,694,732	314,638,426	9,968	1,627,244	337,518,690
25 mm	2,472	978,075	165,819,847	2,428	944,781	175,664,067
40 mm	461	889,136	151,167,544	462	879,635	160,798,066
50 mm	230	1,561,338	287,545,626	230	1,533,839	306,230,857
75 mm	80	1,373,384	248,668,397	79	1,430,195	274,003,889
100 mm	25	742,295	122,116,207	25	758,018	133,408,138
計	19,144	8,152,706	1,421,001,236	18,947	8,027,064	1,522,774,706

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)
18,599	6,858,335	1,231,032,910	18,455	6,950,918	1,251,304,740	18,331	6,929,173	1,377,322,329
4	8,494	193,868	4	8,628	196,908	4	9,624	238,071
126	1,368,191	330,703,689	125	1,391,536	330,390,391	125	1,373,498	363,377,865
0	0	46,785	1	19	62,400	0	0	0
125	188,982	35,421,590	125	194,449	36,471,709	120	190,494	35,364,038
18,854	8,424,002	1,597,398,842	18,710	8,545,550	1,618,426,148	18,580	8,502,789	1,776,302,303

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)
9,702	5,393,626	1,017,457,191	9,614	5,460,955	1,029,988,462	9,541	5,407,403	1,128,265,620
6,402	1,578,622	295,471,885	6,352	1,568,864	293,018,494	6,324	1,565,839	322,947,421
1,471	888,747	171,780,551	1,473	942,530	181,293,076	1,463	964,629	204,412,772
1,154	374,025	77,267,625	1,146	378,752	77,654,407	1,132	374,424	85,312,452
125	188,982	35,421,590	125	194,449	36,471,709	120	190,494	35,364,038
18,854	8,424,002	1,597,398,842	18,710	8,545,550	1,618,426,148	18,580	8,502,789	1,776,302,303

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)
391	2,424,404	402,507,363	397	2,537,755	421,766,726	393	2,554,835	467,935,171
1,722	1,194,336	202,743,688	1,704	1,257,898	212,660,936	1,689	1,243,444	232,000,970
4	8,494	193,868	4	8,628	196,908	4	9,624	238,071
0	0	46,785	1	19	62,400	0	0	0
192	223,804	41,926,912	174	189,283	35,950,076	176	182,624	38,387,707
126	1,368,191	330,703,689	125	1,391,536	330,390,391	125	1,373,498	363,377,865
16,294	3,015,791	583,854,947	16,180	2,965,982	580,927,002	16,073	2,948,270	638,998,481
125	188,982	35,421,590	125	194,449	36,471,709	120	190,494	35,364,038
18,854	8,424,002	1,597,398,842	18,710	8,545,550	1,618,426,148	18,580	8,502,789	1,776,302,303

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)	件数(件)	有収水量(m³)	料 金 (円)
5,698	808,995	129,103,552	5,629	776,422	125,216,183	5,566	758,348	135,484,538
9,938	1,585,349	334,703,762	9,896	1,550,316	332,392,559	9,878	1,521,371	362,412,918
2,418	949,388	176,464,409	2,388	943,494	175,790,534	2,346	930,427	191,718,208
458	946,255	170,836,552	459	967,071	174,119,242	452	929,689	186,774,693
235	1,605,816	320,398,636	231	1,632,980	325,679,539	232	1,658,824	363,739,182
81	1,612,387	305,770,983	82	1,665,787	312,738,340	81	1,727,580	351,329,353
26	915,812	160,120,948	25	1,009,480	172,489,751	25	976,550	184,843,411
18,854	8,424,002	1,597,398,842	18,710	8,545,550	1,618,426,148	18,580	8,502,789	1,776,302,303

第6章 財 務 状 況

1. 比較損益計算書(税抜)

年 度 科 目		令和2年度			令和3年度		
		決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
営業 収益	給水収益	1,421,001,236	85.0	83.7	1,522,774,706	90.0	107.2
	受託工事収益	1,895,643	0.1	159.2	1,452,559	0.1	76.6
	その他営業収益	10,011,388	0.6	95.6	11,409,903	0.7	114.0
営業 外 収益	一般会計からの補助金	122,093,015	7.3	2,478.0	49,877,117	3.0	40.9
	長期前受金戻入	103,411,369	6.2	101.0	89,109,544	5.3	86.2
	雑収益等	11,709,875	0.7	107.8	13,597,277	0.8	116.1
特別利益		1,923,218	0.1	皆増	2,143,267	0.1	111.4
収益合計		1,672,045,744	100.0	91.5	1,690,364,373	100.0	101.1
営業 費用	原水浄水費	822,205,198	49.2	99.2	816,505,990	48.3	99.3
	配水給水費	170,245,036	10.2	95.1	185,034,976	11.0	108.7
	受託工事費	612,647	0.0	108.6	986,926	0.1	161.1
	総係費	123,033,082	7.4	99.9	121,787,819	7.2	99.0
	減価償却費	468,991,699	27.9	114.9	475,048,321	28.1	101.3
	資産減耗費	22,418,943	1.3	87.3	18,701,880	1.1	83.4
	その他営業費用	75,024	0.0	64.9	176,309	0.0	235.0
営業 外 費用	支払利息	63,540,634	3.8	98.7	62,459,313	3.7	98.3
	うち、企業債利息	63,540,634	-	-	62,459,313	-	-
特別損失		917,497	0.1	7.5	9,242,618	0.5	1,007.4
費用合計		1,672,039,760	100.0	101.8	1,689,944,152	100.0	101.1
当年度純利益		5,984	-	0.0	420,221	-	7,022.4

2. 性質別費用構成表(税抜)

区 分 科 目		令和2年度			令和3年度		
		決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
人件費等		99,757,486	6.0	96.1	101,904,727	6.0	102.2
物 件 費 等	委託料	189,907,832	11.4	102.3	188,042,610	11.2	99.0
	修繕費	19,267,289	1.2	101.5	26,831,450	1.6	139.3
	動力費	38,372,886	2.3	83.8	44,632,891	2.6	116.3
	受水費	731,536,280	43.8	98.9	725,850,320	43.0	99.2
	その他費用	37,512,120	2.2	47.0	46,398,451	2.7	123.7
	計	1,016,596,407	60.8	95.0	1,031,755,722	61.1	101.5
内 部 留 保 資 金 等	減価償却費	468,991,699	28.0	114.9	475,048,321	28.1	101.3
	固定資産除却費	22,291,300	1.3	87.2	18,591,850	1.1	83.4
	過年度修正損	862,234	0.0	224.6	184,219	0.0	21.4
	計	492,145,233	29.4	113.4	493,824,390	29.2	100.3
支払利息		63,540,634	3.8	98.7	62,459,313	3.7	98.3
費用合計		1,672,039,760	100.0	101.8	1,689,944,152	100.0	101.1

(単位:円)

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
1,597,398,842	91.7	104.9	1,618,426,148	89.9	101.3	1,776,302,303	91.5	109.8
1,552,690	0.1	106.9	1,634,757	0.1	105.3	1,770,988	0.1	108.3
8,100,417	0.5	71.0	49,655,497	2.8	613.0	28,024,601	1.4	56.4
10,069,161	0.6	20.2	4,293,265	0.2	42.6	8,224,022	0.4	191.6
111,820,756	6.4	125.5	116,955,757	6.5	104.6	118,924,385	6.1	101.7
11,791,312	0.7	86.7	9,044,945	0.5	76.7	6,961,539	0.4	77.0
594,791	0.0	27.8	0	0.0	皆減	1,708,708	0.1	皆増
1,741,327,969	100.0	103.0	1,800,010,369	100.0	103.4	1,941,916,546	100.0	107.9
808,053,643	48.6	99.0	787,222,726	44.4	97.4	803,946,582	46.2	102.1
183,706,174	11.0	99.3	266,238,993	15.0	144.9	201,141,358	11.5	75.5
1,158,117	0.1	117.3	1,930,240	0.1	166.7	2,053,235	0.1	106.4
126,683,091	7.6	104.0	135,236,895	7.6	106.8	147,528,674	8.5	109.1
454,921,886	27.4	95.8	500,530,050	28.2	110.0	506,939,005	29.1	101.3
25,009,215	1.5	133.7	18,728,756	1.1	74.9	11,470,708	0.7	61.2
50,000	0.0	28.4	80,386	0.0	160.8	57,250	0.0	71.2
63,155,735	3.8	101.1	63,520,731	3.6	100.6	68,672,112	3.9	108.1
63,048,315	-	-	63,520,731	-	-	68,672,112	-	-
168,400	0.0	1.8	54,562	0.0	32.4	189,527	0.0	347.4
1,662,906,261	100.0	98.4	1,773,543,339	100.0	106.7	1,741,998,451	100.0	98.2
78,421,708	-	18,662.0	26,467,030	-	33.7	199,918,095	-	755.3

(単位:円)

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
105,658,324	6.4	103.7	107,411,495	6.1	101.7	100,907,305	5.8	93.9
186,464,625	11.3	99.2	186,950,150	10.6	100.3	231,110,430	13.3	123.6
22,287,898	1.3	83.1	92,532,356	5.2	415.2	23,938,505	1.4	25.9
61,864,950	3.7	138.6	54,522,867	3.1	88.1	58,705,412	3.4	107.7
708,487,548	42.6	97.6	694,325,252	39.1	98.0	690,922,560	39.6	99.5
34,999,567	2.1	75.4	55,089,103	3.1	157.4	49,271,875	2.8	89.4
1,014,104,588	61.0	98.3	1,083,419,728	61.1	106.8	1,053,948,782	60.5	97.3
454,921,886	27.3	95.8	500,530,050	28.2	110.0	506,939,005	29.1	101.3
24,897,328	1.5	133.9	18,606,773	1.0	74.7	11,341,720	0.7	61.0
168,400	0.0	91.4	54,562	0.0	32.4	189,527	0.0	347.4
479,987,614	28.8	97.2	519,191,385	29.2	108.2	518,470,252	29.8	99.9
63,155,735	3.8	101.1	63,520,731	3.6	100.6	68,672,112	3.9	108.1
1,662,906,261	100.0	98.4	1,773,543,339	100.0	106.7	1,741,998,451	100.0	98.2

3. 資本的収支計算表(税抜)

年 度 科 目		令和2年度			令和3年度		
		決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
	企業債	500,000,000	72.2	100.0	577,400,000	69.6	115.5
	固定資産売却代金	0	0.0	－	0	0.0	－
	工事負担金	19,456,000	2.8	84.4	9,966,000	1.2	51.2
	一般会計出資金	88,029,066	12.7	404.5	163,588,000	19.7	185.8
	国庫支出金	65,000,000	9.4	皆増	58,971,000	7.1	90.7
	県支出金	20,000,000	2.9	76.2	20,000,000	2.4	100.0
	他会計補助金	0	－	－	0	－	－
	資本的収入計	692,485,066	100.0	121.3	829,925,000	100.0	119.8
建設改良費	人件費	43,402,146	4.0	106.6	44,198,846	3.9	101.8
	工事費	766,777,183	70.2	93.3	855,877,879	74.6	111.6
	材料費	196,125	0.0	47.1	1,024,286	0.1	522.3
	委託料	107,416,000	9.8	415.6	32,719,000	2.9	30.5
	固定資産購入費	1,891,920	0.2	6.9	8,435,095	0.7	445.8
	その他支出	784,867	0.1	73.7	16,263,644	1.4	2,072.2
	計	920,468,241	84.3	100.4	958,518,750	83.6	104.1
	企業債償還金	171,493,249	15.7	115.1	188,697,621	16.4	110.0
	資本的支出計	1,091,961,490	100.0	102.4	1,147,216,371	100.0	105.1
補填財源		資本的収支不足額	399,476,424		資本的収支不足額	317,291,371	
		【内訳】			【内訳】		
		減債積立金取崩額	171,493,249		減債積立金取崩額	188,697,621	
		損益勘定留保資金	227,983,175		損益勘定留保資金	128,593,750	

(単位:円)

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
356,200,000	46.6	61.7	650,000,000	59.3	182.5	596,500,000	47.4	91.8
0	0.0	－	0	0.0	－	125,837	0.0	皆増
13,567,000	1.8	136.1	18,075,546	1.6	133.2	16,130,000	1.3	89.2
237,821,072	31.1	145.4	26,813,379	2.4	11.3	89,015,105	7.1	332.0
156,455,000	20.5	265.3	398,440,000	36.4	254.7	544,630,000	43.3	136.7
0	－	0.0	3,309,000	0.3	皆増	5,315,600	0.4	160.6
0	－	－	0	－	－	5,975,000	0.5	皆増
764,043,072	100.0	92.1	1,096,637,925	100.0	143.5	1,257,691,542	100.0	114.7
43,261,796	3.2	97.9	47,475,761	2.8	109.7	47,937,669	2.3	101.0
1,093,986,252	80.6	127.8	1,339,632,254	80.3	122.5	1,676,132,731	79.5	125.1
2,761,095	0.2	269.6	1,393,519	0.1	50.5	242,481	0.0	17.4
7,100,000	0.5	21.7	49,388,000	3.0	695.6	118,600,000	5.6	240.1
422,554	0.0	5.0	6,342,493	0.4	1,501.0	26,072,301	1.2	411.1
1,513,200	0.1	9.3	1,361,478	0.1	90.0	911,208	0.0	66.9
1,149,044,897	84.6	119.9	1,445,593,505	86.7	125.8	1,869,896,390	88.6	129.4
208,469,431	15.4	110.5	222,577,360	13.3	106.8	239,680,728	11.4	107.7
1,357,514,328	100.0	118.3	1,668,170,865	100.0	122.9	2,109,577,118	100.0	126.5
資本の収支不足額	593,471,256		資本の収支不足額	571,532,940		資本の収支不足額	851,885,576	
【内訳】			【内訳】			【内訳】		
減債積立金取崩額	208,469,431		減債積立金取崩額	222,577,360		減債積立金取崩額	239,680,728	
損益勘定留保資金	385,001,825		損益勘定留保資金	348,955,580		損益勘定留保資金	612,204,848	

4. 比較貸借対照表

【資産の部】

年 度 科 目		令和2年度			令和3年度		
		決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
有形 固定 資産	土地	677,290,289	4.2	100.0	677,890,289	4.1	100.1
	建物	46,399,367	0.3	115.3	43,253,234	0.3	93.2
	構築物	12,525,980,664	78.5	102.8	12,682,581,442	77.0	101.3
	機械及び装置	518,333,595	3.2	97.1	500,177,859	3.0	96.5
	車輛運搬具	16,719,659	0.1	78.8	12,651,314	0.1	75.7
	工具・器具及び備品	11,201,993	0.1	79.9	8,760,965	0.1	78.2
	建設仮勘定	406,770,950	2.6	773.2	742,379,830	4.5	182.5
	計	14,202,696,517	89.0	105.0	14,667,694,933	89.0	103.3
固定資産計		14,202,696,517	89.0	105.0	14,667,694,933	89.0	103.3
流動 資産	現金預金	1,572,111,722	9.8	115.6	1,693,586,683	10.3	107.7
	未収金	172,464,776	1.1	174.8	102,962,793	0.6	59.7
	貯蔵品	12,530,483	0.1	98.5	12,382,219	0.1	98.8
	計	1,757,106,981	11.0	119.4	1,808,931,695	11.0	102.9
資産合計		15,959,803,498	100.0	106.4	16,476,626,628	100.0	103.2

【負債・資本の部】

固定 負債	企業債	5,399,489,565	33.8	108.0	5,753,219,134	34.9	106.6
	引当金	139,004,038	0.9	102.1	132,008,757	0.8	95.0
	計	5,538,493,603	34.7	107.8	5,885,227,891	35.7	106.3
流動 負債	企業債	188,696,621	1.2	113.6	223,669,431	1.4	118.5
	未払金	553,353,761	3.5	214.7	516,054,448	3.1	93.3
	引当金	18,828,252	0.1	137.4	28,940,921	0.2	153.7
	その他流動負債	7,512,996	0.0	106.3	11,617,358	0.1	154.6
	計	768,391,630	4.8	172.8	780,282,158	4.7	101.5
繰延収益(長期前受金)		3,164,059,123	19.8	104.7	3,158,249,216	19.2	99.8
負債合計		9,470,944,356	59.3	110.1	9,823,759,265	59.6	103.7
資本 金	自己資本金	5,248,200,721	32.9	104.9	5,583,281,970	33.9	106.4
	資本金計	5,248,200,721	32.9	104.9	5,583,281,970	33.9	106.4
資本 剰余 金	県補助金	13,427,000	0.1	100.0	13,427,000	0.1	100.0
	工事負担金	11,247,960	0.1	100.0	11,247,960	0.1	100.0
	受贈財産評価額	120,866,578	0.7	100.0	120,866,578	0.7	100.0
	計	145,541,538	0.9	100.0	145,541,538	0.9	100.0
剰余 金 利益	減債積立金	923,617,650	5.8	101.6	734,926,013	4.5	79.6
	当年度未処分利益剰余金	171,499,233	1.1	51.1	189,117,842	1.1	110.3
	計	1,095,116,883	6.9	88.0	924,043,855	5.6	84.4
剰余金計		1,240,658,421	7.8	89.3	1,069,585,393	6.5	86.2
資本計		6,488,859,142	40.7	101.5	6,652,867,363	40.4	102.5
負債資本合計		15,959,803,498	100.0	106.4	16,476,626,628	100.0	103.2

(単位:円)

令和4年度			令和5年度			令和6年度		
決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)	決算額	構成比率(%)	前年比率(%)
677,890,289	4.1	100.0	677,890,289	3.7	100.0	677,890,289	3.4	100.0
40,246,193	0.2	93.0	38,241,496	0.2	95.0	36,951,949	0.2	96.6
13,328,733,572	79.6	105.1	13,496,180,349	74.5	101.3	15,672,199,060	78.4	116.1
1,089,880,845	6.5	217.9	1,042,498,690	5.7	95.7	1,036,578,094	5.2	99.4
8,731,335	0.1	69.0	6,428,345	0.0	73.6	8,199,570	0.0	127.6
6,497,431	0.0	74.2	5,559,774	0.0	85.6	22,973,753	0.1	413.2
184,940,951	1.1	24.9	1,002,446,355	5.5	542.0	194,085,411	1.0	19.4
15,336,920,616	91.6	104.6	16,269,245,298	89.6	106.1	17,648,878,126	88.2	108.5
15,336,920,616	91.6	104.6	16,269,245,298	89.6	106.1	17,648,878,126	88.2	108.5
1,260,669,889	7.5	74.4	1,610,659,120	8.9	127.8	2,141,322,113	10.7	132.9
120,659,216	0.7	117.2	245,927,149	1.4	203.8	194,136,387	1.0	78.9
17,127,297	0.1	138.3	14,121,387	0.1	82.4	14,667,863	0.1	103.9
1,398,456,402	8.4	77.3	1,870,707,656	10.4	133.8	2,350,126,363	11.8	125.6
16,735,377,018	100.0	101.6	18,139,952,954	100.0	108.4	19,999,004,489	100.0	110.2

5,902,040,774	35.3	102.6	6,312,360,046	34.8	107.0	6,643,228,114	33.3	105.2
117,117,025	0.7	88.7	94,831,515	0.5	81.0	67,808,073	0.3	71.5
6,019,157,799	36.0	102.3	6,407,191,561	35.3	106.4	6,711,036,187	33.6	104.7
222,578,360	1.3	99.5	239,681,728	1.3	107.7	265,632,932	1.3	110.8
275,513,118	1.6	53.4	945,208,314	5.2	343.1	1,745,964,416	8.7	184.7
34,224,893	0.2	118.3	44,547,794	0.2	130.2	49,711,732	0.2	111.6
12,565,426	0.1	108.2	8,058,755	0.0	64.1	15,119,548	0.1	187.6
544,881,797	3.3	69.8	1,237,496,591	6.7	227.1	2,076,428,628	10.4	167.8
3,202,227,279	19.1	101.4	3,472,874,250	19.1	108.5	3,900,215,922	19.5	112.3
9,766,266,875	58.4	99.4	11,117,562,402	61.1	113.8	12,687,680,737	63.4	114.1
6,009,800,663	35.9	107.6	6,245,083,473	34.4	103.9	6,556,675,938	32.8	105.0
6,009,800,663	35.9	107.6	6,245,083,473	34.4	103.9	6,556,675,938	32.8	105.0
13,427,000	0.1	100.0	13,427,000	0.1	100.0	13,427,000	0.1	100.0
11,247,960	0.1	100.0	11,247,960	0.1	100.0	11,247,960	0.1	100.0
120,866,578	0.7	100.0	120,866,578	0.7	100.0	120,866,578	0.6	100.0
145,541,538	0.9	100.0	145,541,538	0.9	100.0	145,541,538	0.7	100.0
526,876,803	3.2	71.7	382,721,151	2.2	72.6	169,507,453	0.8	44.3
286,891,139	1.7	151.7	249,044,390	1.4	86.8	439,598,823	2.2	176.5
813,767,942	4.9	88.1	631,765,541	3.6	77.6	609,106,276	3.0	96.4
959,309,480	5.7	89.7	777,307,079	4.5	81.0	754,647,814	3.8	97.1
6,969,110,143	41.6	104.8	7,022,390,552	38.9	100.8	7,311,323,752	36.6	104.1
16,735,377,018	100.0	101.6	18,139,952,954	100.0	108.4	19,999,004,489	100.0	110.2

5. 業務分析

項 目		算出方法	令和2年度		令和3年度	
			算出根拠	数値	算出根拠	数値
職員 1人あたり	給水人口	$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{所属職員数}}$ 人	$\frac{35,755}{19}$	1,882 人	$\frac{34,970}{20}$	1,749 人
	有収水量	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{所属職員数}}$ m ³	$\frac{8,152,706}{19}$	429,090 m ³	$\frac{8,027,064}{20}$	401,353 m ³
	営業収益	$\frac{\text{営業収益}}{\text{所属職員数}}$ 千円	$\frac{1,432,908}{19}$	75,416 千円	$\frac{1,535,637}{20}$	76,782 千円
	労働生産性	$\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定職員数}}$ 千円	$\frac{1,432,908}{13}$	110,224 千円	$\frac{1,535,637}{14}$	109,688 千円
	労働分配率	$\frac{\text{職員給与費等(*1)}}{\text{営業収益}} \times 100\%$	$\frac{99,757}{1,432,908} \times 100$	6.96 %	$\frac{101,905}{1,535,637} \times 100$	6.64 %
有収水量 1 m ³ あたり	供給単価	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$ 円	$\frac{1,421,001}{8,153}$	174.30 円	$\frac{1,522,775}{8,027}$	189.71 円
	給水原価	$\frac{\text{総費用(*2)}}{\text{年間総有収水量}}$ 円	$\frac{1,567,027}{8,153}$	192.21 円	$\frac{1,590,523}{8,027}$	198.14 円
	料金回収率	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100\%$	$\frac{174.30}{192.21} \times 100$	90.68 %	$\frac{189.71}{198.14} \times 100$	95.74 %

6. 財務分析

項 目		算出方法	令和2年度		令和3年度	
			算出根拠	数値	算出根拠	数値
構成比率	自己資本構成比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金}}{\text{負債資本合計}} \times 100\%$	$\frac{9,652,918}{15,959,803} \times 100$	60.48 %	$\frac{9,811,117}{16,476,627} \times 100$	59.55 %
	指標の見方	総資本に占める自己資本の割合を指示するもので、比率が大きいほど経営の安定性も大きいといえる。				
	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100\%$	$\frac{14,202,697}{15,959,803} \times 100$	88.99 %	$\frac{14,667,695}{16,476,627} \times 100$	89.02 %
	指標の見方	総資産の固定化の度合いを示す。比率は一般的には高いが、低いほど良い。				
	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債資本合計}} \times 100\%$	$\frac{5,538,494}{15,959,803} \times 100$	34.70 %	$\frac{5,885,228}{16,476,627} \times 100$	35.72 %
財務比率	指標の見方	企業の他人資本への依存度を判断する指標。流動負債構成比率とともに、企業の長期支払能力、				
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100\%$	$\frac{14,202,697}{9,652,918} \times 100$	147.13 %	$\frac{14,667,695}{9,811,117} \times 100$	149.50 %
	指標の見方	企業の財務的安全性の判断をする為に使用される指標であり、数値は小さいほど良好とされる。				
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100\%$	$\frac{1,757,107}{768,392} \times 100$	228.67 %	$\frac{1,808,932}{780,282} \times 100$	231.83 %
	指標の見方	企業の支払能力を判断する指標。1年以内に現金化できる資産と支払うべき負債を比較するものであり、				
回転率	総資本回転率	$\frac{\text{総収益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2}$ 回	$\frac{1,672,046}{15,478,169}$	0.11 回	$\frac{1,690,364}{16,218,215}$	0.10 回
	指標の見方	企業に投下されている資本の効率を総括的に測定する指標。				
	自己資本回転率	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \div 2}$ 回	$\frac{1,432,908}{9,534,022}$	0.15 回	$\frac{1,535,637}{9,732,017}$	0.16 回
	指標の見方	一期間中における資本の活動状況を判断する指標。数値が大きいほど自己資本の利用が効率よく活発				
	流動資産回転率	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$ 回	$\frac{1,432,908}{1,614,422}$	0.89 回	$\frac{1,535,637}{1,783,019}$	0.86 回
	指標の見方	流動資産がどの程度、経営活動に利用されているかを判断する指標であり、数値が大きいほど流動資産				
	未収金回転率	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首未収金} + \text{期末未収金}) \div 2}$ 回	$\frac{1,432,908}{135,574}$	10.57 回	$\frac{1,535,637}{137,714}$	11.15 回
収益率	指標の見方	未収金の回転状況を判断する指標で、数値が大きいほど未収期間が短く、未収金が早く回収されている				
	総資本利益率	$\frac{\text{当年度純利益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2} \times 100\%$	$\frac{6}{15,478,169} \times 100$	0.00 %	$\frac{420}{16,218,215} \times 100$	0.00 %
	指標の見方	企業に投下された資本と企業活動によって生み出された利益との関係から、経営の効率性、収益性を				
	総収支比率	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100\%$	$\frac{1,672,046}{1,672,040} \times 100$	100.00 %	$\frac{1,690,364}{1,689,944} \times 100$	100.02 %
	指標の見方	企業の全活動の能率を表す指標。数値が大きいほど経営状態が良好とみなされ、理想比率は100%				
収益率	経常収支比率	$\frac{\text{営業収益} + \text{営業外収益}}{\text{営業費用} + \text{営業外費用}} \times 100\%$	$\frac{1,670,123}{1,671,122} \times 100$	99.94 %	$\frac{1,688,221}{1,680,702} \times 100$	100.45 %
	指標の見方	経常費用(営業+営業外費用)が経常収益(営業+営業外費収益)によってどの程度賄われている				

○ 資金不足比率、実質資金不足比率 なし

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
算出根拠	数値	算出根拠	数値	算出根拠	数値
$\frac{34,298}{20}$	1,715 人	$\frac{33,600}{20}$	1,680 人	$\frac{32,997}{18}$	1,833 人
$\frac{8,424,002}{20}$	421,200 m ³	$\frac{8,545,550}{20}$	427,278 m ³	$\frac{8,502,789}{18}$	472,377 m ³
$\frac{1,607,052}{20}$	80,353 千円	$\frac{1,669,716}{20}$	83,486 千円	$\frac{1,806,098}{18}$	100,339 千円
$\frac{1,607,052}{14}$	114,789 千円	$\frac{1,669,716}{14}$	119,265 千円	$\frac{1,806,098}{12}$	150,508 千円
$\frac{105,658}{1,607,052} \times 100$	6.57 %	$\frac{107,411}{1,669,716} \times 100$	6.43 %	$\frac{100,907}{1,806,098} \times 100$	5.59 %
$\frac{1,597,399}{8,424}$	189.62 円	$\frac{1,618,426}{8,546}$	189.39 円	$\frac{1,776,302}{8,503}$	208.91 円
$\frac{1,549,755}{8,424}$	183.97 円	$\frac{1,654,582}{8,546}$	193.62 円	$\frac{1,620,828}{8,503}$	190.62 円
$\frac{189.62}{183.97} \times 100$	103.07 %	$\frac{189.39}{193.62} \times 100$	97.82 %	$\frac{208.91}{190.62} \times 100$	109.60 %

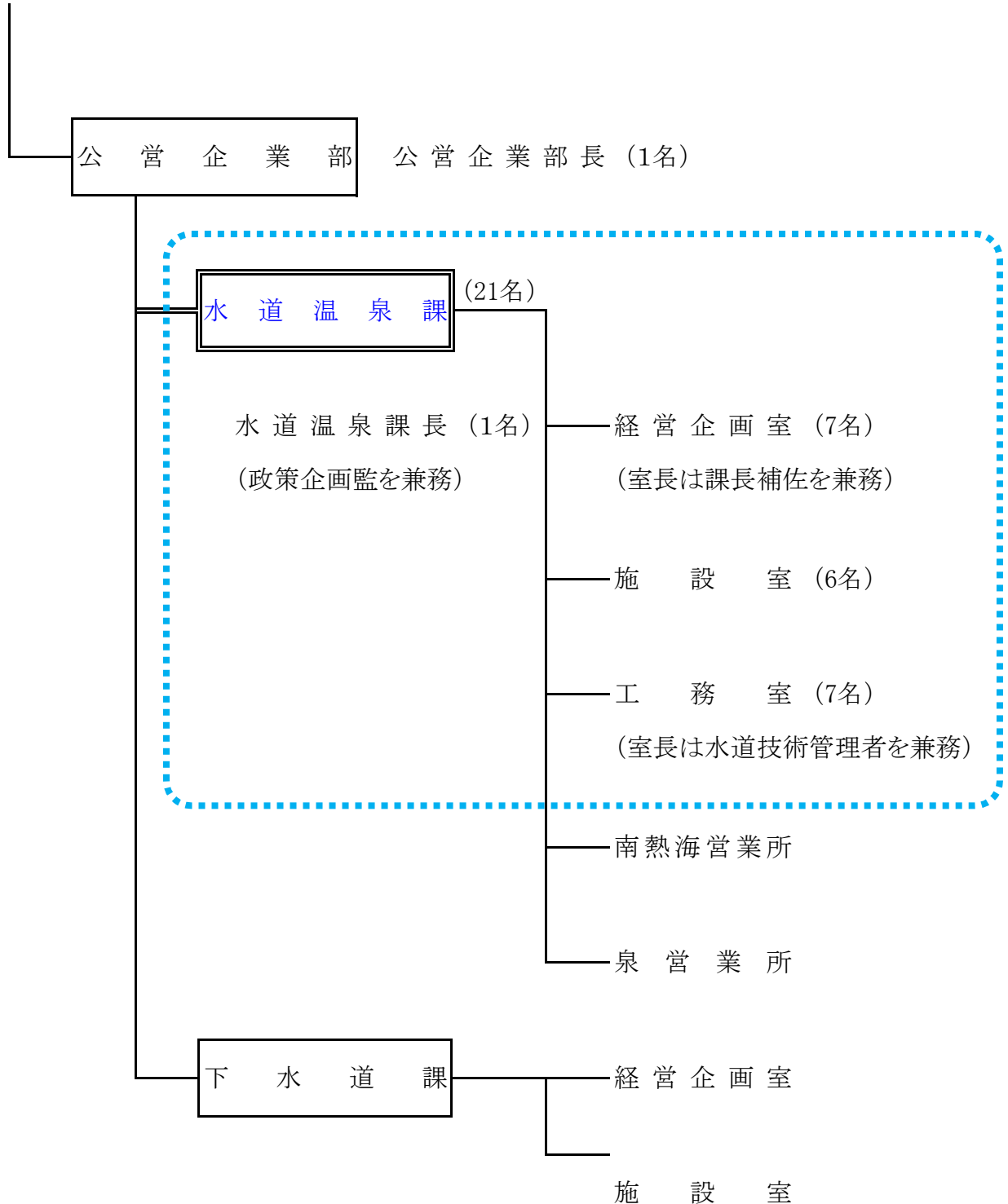
*1 特別損失及び児童手当を含む

*2 受託工事費、材料売却原価、特別損失及び長期前受金戻入を除く

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
算出根拠	数値	算出根拠	数値	算出根拠	数値
$\frac{10,171,337}{16,735,377} \times 100$	60.78 %	$\frac{10,495,265}{18,139,953} \times 100$	57.86 %	$\frac{11,211,540}{19,999,004} \times 100$	56.06 %
自己資本=自己資本金+剰余金+繰延収益					
$\frac{15,336,921}{16,735,377} \times 100$	91.64 %	$\frac{16,269,245}{18,139,953} \times 100$	89.69 %	$\frac{17,648,878}{19,999,004} \times 100$	88.25 %
$\frac{6,019,158}{16,735,377} \times 100$	35.97 %	$\frac{6,407,192}{18,139,953} \times 100$	35.32 %	$\frac{6,711,036}{19,999,004} \times 100$	33.56 %
あるいは長期安定性を測定するものであり、比率が小さいほどよい。					
$\frac{15,336,921}{10,171,337} \times 100$	150.79 %	$\frac{16,269,245}{10,495,265} \times 100$	155.02 %	$\frac{17,648,878}{11,211,540} \times 100$	157.42 %
理想比率は200%以上とされる。					
$\frac{1,398,456}{544,882} \times 100$	256.65 %	$\frac{1,870,708}{1,237,497} \times 100$	151.17 %	$\frac{2,350,126}{2,076,429} \times 100$	113.18 %
理想比率は200%以上とされる。					
$\frac{1,741,328}{16,606,002}$	0.10 回	$\frac{1,800,010}{17,437,665}$	0.10 回	$\frac{1,941,917}{19,069,479}$	0.10 回
$\frac{1,607,052}{9,991,227}$	0.16 回	$\frac{1,669,716}{10,333,301}$	0.16 回	$\frac{1,806,098}{10,853,402}$	0.17 回
になされていることを示す。					
$\frac{1,607,052}{1,603,694}$	1.00 回	$\frac{1,669,716}{1,634,582}$	1.02 回	$\frac{1,806,098}{2,110,417}$	0.86 回
が有効に稼働していることを示す。					
$\frac{1,607,052}{111,811}$	14.37 回	$\frac{1,669,716}{183,293}$	9.11 回	$\frac{1,806,098}{220,032}$	8.21 回
ことを示す。					
$\frac{78,422}{16,606,002} \times 100$	0.47 %	$\frac{26,467}{17,437,665} \times 100$	0.15 %	$\frac{199,918}{19,069,479} \times 100$	1.05 %
示すもので、数値が大きいほど効率性、収益性が高いことを示す。					
$\frac{1,741,328}{1,662,906} \times 100$	104.72 %	$\frac{1,800,010}{1,773,543} \times 100$	101.49 %	$\frac{1,941,917}{1,741,998} \times 100$	111.48 %
以上とされる。					
$\frac{1,740,733}{1,662,738} \times 100$	104.69 %	$\frac{1,800,010}{1,773,489} \times 100$	101.50 %	$\frac{1,940,208}{1,741,809} \times 100$	111.39 %
かを示す。100%以上が望ましく、高いほど利益性が高い。					

職 員 機 構 図 （令和7年4月1日 現在）

市 長 （公営企業管理者の権限を有する）





熱 海 市

『令和 6 年度版 熱海の水道』

編集・発行 熱海市 公営企業部 水道温泉課

令和 7 年 1 0 月 第 1 版